



令和5年度 学校法人天理大学事業報告書

学校法人 天理大学

I 法人の概要

1. 設置する学校および附属施設

法人事務局	〒 632-0035 奈良県天理市守目堂町 213-4 https://gh.tenri-u.ac.jp/
天理大学	〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 https://www.tenri-u.ac.jp/
天理図書館	〒 632-8577 奈良県天理市杣之内町 1050 https://www.tcl.gr.jp/
おやさと研究所	〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050 https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/
天理参考館	〒 632-8540 奈良県天理市守目堂町 250 https://www.sankokan.jp/
天理高等学校 第一部	〒 632-8585 奈良県天理市杣之内町 1260 https://www.tenri-h.ed.jp/1bu/
天理高等学校 第二部	〒 632-8585 奈良県天理市杣之内町 1260 https://www.tenri-h.ed.jp/2bu/
天理中学校	〒 632-0032 奈良県天理市杣之内町 827 https://www.tenri-j.ed.jp/
天理小学校	〒 632-0032 奈良県天理市杣之内町 80 https://www.tenri-e.ed.jp/
天理幼稚園	〒 632-0015 奈良県天理市三島町 470-1 https://www.tenri-k.ed.jp/

2. 建学の精神

親神（おやがみ）は、「陽気ぐらし」を共に楽しみたいと思召されて、人間世界を創造された。

教祖（おやさま）は、この元なる親神（おやがみ）の存在と、世界一列きょうだいの真実を明かし、「ひながた」の道を通して、互いにたすけあう生き方を示された。

本法人は、教祖（おやさま）の教えに基づいて、「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命とする。

3. 学校法人の沿革

- 明治33(1900)年 ● 天理教校開校
- 明治41(1908)年 ● 私立天理中学校開校(大正8年天理中学校に改称)
- 大正 9(1920)年 ● 天理女学校開校
- 大正12(1923)年 ● 天理女学校を高等女学校令による天理高等女学校に改組・改称
- 大正14(1925)年 ● 天理幼稚園、天理尋常小学校、各種学校令による天理外国語学校開校
- 天理図書館を天理外国語学校内に設置
- 昭和 2(1927)年 ● 財団法人天理外国語学校設立、専門学校令による天理外国語学校開校
- 昭和 3(1928)年 ● 専門学校令による天理外国語学校(男子)と天理女子学院(女子)に改組・改称
- 天理中等学校(定時制)開校(昭和18年天理中学校第二部に統合)
- 昭和 5(1930)年 ● 海外事情参考品室(現天理大学附属天理参考館)を天理外国語学校内に設置
- 昭和10(1935)年 ● 財団法人天理教いちれつ会に改組、天理第二中学校開校
- 昭和15(1940)年 ● 天理女子学院を専門学校令による天理女子専門学校に改組・改称
- 昭和16(1941)年 ● 天理夜間女学校開校(昭和19年天理高等女学校第二部に改組)
- 昭和17(1942)年 ● 天理教亜細亜文化研究所(現天理大学附属おやさと研究所)設置
- 昭和19(1944)年 ● 天理外国語学校を天理語学専門学校に、また天理女子専門学校を天理女子語学
専門学校にそれぞれ改組・改称(昭和22年統合、昭和26年廃校)
- 昭和22(1947)年 ● 新制天理中学校開校
- 昭和23(1948)年 ● 財団法人天理語学専門学校に改組、新制天理高等学校(第一部・第二部)開校
- 昭和24(1949)年 ● 財団法人天理大学に改称
- 新制天理大学開学
(文学部、昭和27年外国語学部設置(平成12年廃止)、昭和30年体育学部設置)
- 昭和25(1950)年 ● 天理大学短期大学部設置(昭和34年廃止)
- 昭和26(1951)年 ● 私立学校法により学校法人天理大学に組織変更
- 昭和33(1958)年 ● 天理大学選科日本語科設置(昭和56年別科日本語課程、外国語課程に改組・改称、
外国語課程は平成4年度から募集停止、日本語課程は平成6年度から募集停止)
- 昭和38(1963)年 ● 天理准看護婦養成所開設(平成13年廃止)
- 平成 4(1992)年 ● 天理大学人間学部(宗教学科、人間関係学科)、国際文化学部(日本学科、朝鮮学科、
中国学科、タイ学科、インドネシア学科、英米学科、ドイツ学科、フランス学科、
ロシア学科、イスパニア学科、ブラジル学科)(平成15年募集停止、平成21年廃止)、
文学部(歴史文化学科)設置
- 平成12(2000)年 ● 天理高等学校第二部に介護福祉科設置(平成24年廃止)
- 平成15(2003)年 ● 天理大学国際文化学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科設置(平成22年募集
停止、平成29年廃止)
- 平成16(2004)年 ● 天理大学大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻修士課程設置
- 平成22(2010)年 ● 天理大学国際学部外国語学科、地域文化学科設置
- 平成27(2015)年 ● 天理大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程設置
- 平成29(2017)年 ● 天理大学大学院宗教文化研究科宗教文化研究専攻修士課程設置
- 令和 5(2023)年 ● 天理大学医療学部(看護学科、臨床検査学科)設置

4. 役員の概要

(1) 理事・監事 理事定員数13～15名 現員数15名、監事定員数2～3名 現員数2名 (令和6年3月31日現在)

役員		就任年月日
理事長 (常勤)	深谷 善太郎 (学校法人天理大学 理事長)	2016.01.12
専務理事 (常勤)	松村 孝吉 (学校法人天理大学 専務理事)	2023.04.01
常務理事 (常勤)	井筒 夏夫 (学校法人天理大学 常務理事)	2021.04.02
常務理事 (常勤)	清瀬 善敬 (学校法人天理大学 常務理事)	2023.04.01
常務理事 (常勤)	吉福 晃 (学校法人天理大学 常務理事)	2023.04.01
理事 (常勤)	永尾 比奈夫 (天理大学 学長)	2021.04.02
理事 (常勤)	西田 伊作 (天理高等学校 校長)	2023.04.01
理事 (常勤)	島田 勝巳 (天理大学 副学長)	2023.04.01
理事 (常勤)	屋宜 譜美子 (天理大学 副学長)	2023.04.01
理事 (常勤)	安藤 正治 (天理図書館 館長)	2022.04.01
理事 (非常勤)	橋本 道人 (天理参考館 館長)	2022.11.02
理事 (非常勤)	松田 理治 (宗教法人天理教 海外部長)	2021.04.02
理事 (非常勤)	小林 忠男 (医学博士)	2020.04.01
理事 (非常勤)	塩澤 好久 (株式会社シオザワ 代表取締役社長)	2009.11.06
理事 (非常勤)	島岡 亮博 (株式会社キャンパ`サポート天理 代表取締役)	2020.04.01
監事 (非常勤)	安藤 勇作 (元内部監査室長)	2020.11.01
監事 (非常勤)	福富 修一 (弁護士)	2005.06.02

(2) 評議員 評議員定員数31名 現員数31名 (令和6年3月31日現在)

役員	就任年月日	役員	就任年月日
評議員 西浦 三太	2016.03.26	評議員 三濱 靖和	2020.10.25
評議員 尾上 晋司	2023.04.01	評議員 西 正一郎	2023.10.25
評議員 伊藤 加寿子	2023.04.01	評議員 上田 則之	2020.10.25
評議員 吉福 晃	2020.04.01	評議員 高橋 道一	2008.10.25
評議員 小川 富博	2023.04.01	評議員 堀内 みどり	2019.07.02
評議員 長谷 幹男	2023.04.01	評議員 吉川 万寿信	2023.10.25
評議員 稲葉 さやか	2023.04.01	評議員 増野 正志	2017.10.25
評議員 中村 修司	2023.10.25	評議員 井筒 夏夫	2021.04.02
評議員 志富田 みちの	2023.04.01	評議員 山中 秀夫	2017.10.25
評議員 根兵 種夫	2023.10.25	評議員 井上 昭洋	2017.10.25
評議員 深谷 善太郎	2016.03.26	評議員 岡田 龍樹	2017.10.25
評議員 松尾 憲善	2020.10.25	評議員 岡田 正彦	2017.10.25
評議員 板倉 望	2017.10.25	評議員 井久保 齐	2020.10.28
評議員 梅谷 大一	2017.10.25	評議員 中 純子	2023.10.30
評議員 清瀬 善敬	2016.03.26	評議員 塚本 順子	2023.10.30
評議員 松村 孝吉	2020.10.25		

5. 学校・学部・学科等の入学定員、学生数、教職員数の概要

令和5(2023)年5月1日現在 (単位：名)

学校	学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
天理大学大学院		宗教文化研究科	6	0	12	0
		臨床人間学研究科	8	7	16	13
		体育学研究科	12	8	24	16
		大学院計	26	15	52	29
天理大学	人間学部	宗教学科	40	21	160	94
		人間関係学科	80	71	320	298
		人間学部計	120	92	480	392
	文学部	国文学国語学科	40	28	160	126
		歴史文化学科	50	29	200	144
		文学部計	90	57	360	270
	国際学部	外国語学科	165	88	660	454
		地域文化学科	195	123	780	551
		国際学部計	360	211	1,440	1,005
	体育学部	体育学科	200	221	800	872
		体育学部計	200	221	800	872
	医療学部	看護学科	70	78	280	319
		臨床検査学科	30	25	120	93
		医療学部計	100	103	400	412
		学部計	870	684	3,480	2,951

学校	学科	募集人員	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
天理高等学校 第一部	全日制普通科	480	520	400	1,560	1,229
天理高等学校 第二部	定時制普通科	108	144	100	576	362
	天理高等学校計	588	664	500	2,136	1,591
天理中学校		160	200	157	600	454
天理小学校		110	125	40	750	436
天理幼稚園			50	37	200	99
	総計	858	1,039	734	3,686	2,580

以上、大学院から幼稚園までの学生数の合計：5,560名

施設	役員数	教員数		職員数		総計
		専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員	
法人事務局	17			30	15	62
天理大学		165	266	92	42	565
天理図書館				25	9	34
おやさと研究所		5		1	1	7
天理参考館				21	1	22
天理高等学校 第一部		81	6	28	101	216
天理高等学校 第二部		30	4	21	43	98
天理中学校		28	2	5	13	48
天理小学校		29	4	5	7	45
天理幼稚園		12		2	6	20
	総計	17	350	282	238	1,117

Ⅱ 事業の概要

学校法人天理大学は、教育基本法および学校教育法に従い、併せて天理教の信仰に基づく宗教教育を行うことを目的として設立されました。本法人は、この目的を達成するために、「天理大学」「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」を設置し、天理教の教義に基づき、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与することのできる人材の育成を目指す“信条教育”を柱とする学校運営に努めています。この信条教育の徹底を図るために、毎年、教職員全員を対象として「信条教育講習会」を開催しています。令和5（2023）年度は教祖140年祭に向かう年祭活動をつとめる上での心の持ち方を確認することを目指し、「諭達第四号を承けて」と題して中学校・高等学校の部、幼稚園・小学校の部の2回を深谷善太郎理事長が、大学の部は永尾比奈夫学長を講師として対面形式で開催しました。

教職員の指針として策定した「めざす教職員像」のアンケートについては本年も全教職員に実施し、一人ひとりが常に信条教育を意識した取り組みがなされているかの自己点検を行い、信条教育発揚の一助としました。

教育現場で勤める教職員にとって、研修が何より大切であることは言うまでもありません。各学校・園はそれぞれの実情に応じて研修会を実施し、加えて法人全体としては新任者研修会、現職研修、管理職研修会、施設訪問研修会を開催し、教職員の資質向上を目指しました。

学校運営検討委員会では、「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」の教育目標達成を目指し、保護者や社会から信頼される学校づくりを進めるために「学校評価」等を活用して、法人と学校の連携を図るとともに、それぞれが抱える課題を共有して学校運営の継続的な改善・向上に努めました。

学校施設は学生・生徒・児童・園児が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、その安全は極めて重要です。本年度は令和6（2024）年度に実施される、天理小学校の耐震補強工事並びに天理幼稚園移転の準備を進めました。

キャンパス整備については、従来から重要性また緊急性の高いものから計画的に取り組んでいます。令和5（2023）年度は、施設・設備面の主なものとして、天理大学杣之内キャンパスでは、二号棟4階タイルカーペット張り替えやLED照明更新工事、八号棟空調設備更新工事、心光館食堂食洗機入れ替え工事、三号棟、四号棟耐震二次診断を、田井庄キャンパスでは、七号棟研究室改修工事、グラウンド用日除け設置、武道館剣道場床改修工事を、別所キャンパスでは、校舎出入管理システム設置、食堂券売機改修、十一号棟改修工事を実施しました。また、天理図書館では東西閲覧室および西1階のLED照明更新工事や分電盤更新工事を、天理参考館では非常誘導灯更新工事を、天理高等学校では第三別館外壁塗装およびバルコニー防水改修工事、本校舎、図書館棟、南グラウンド東トイレ改修工事、家庭科棟空調更新工事、西グラウンド、総合体育館、テニスコート、親里野球場のLED照明更新工事を実施しました。さらに、天理中学校では講堂棟空調修理と図書室床張り替え工事を、天理小学校では校舎仮移転に伴う教室の改修や食洗機設置、ネットワーク等移設工事を、天理幼稚園では遊戯室外壁修繕工事を実施しました。

令和5（2023）年度は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたことに伴い各施設とも徐々に従来の体制に戻り、学生・生徒・児童・園児がより楽しく充実した学校・園生活を送れるよう、学校運営に努めました。

以下、令和5（2023）年度の各教育施設の主な事業内容を報告します。

令和5（2023）年4月3日、入学式を杣之内第一体育館で挙行し、新入生704名（学部生684名、大学院生15名、編入学5名）が本学学生として第一歩を踏み出しました。学長が式辞の中で、天理大学と天理医療大学の統合により本年度から医療学部が設置されたことを報告しました。

卒業証書・学位記授与式および大学院学位記授与式を、令和6（2024）年3月19日に杣之内第一体育館において挙行し、学部卒業生782名、大学院修了生13名の計795名が本学を巣立ちました。



令和 5（2023）年度 入学式

外部資金獲得の一つの柱として平成30（2018）年に開設された「天理大学まほろば募金」により、寄付金募集を引き続き行いました。同募金では、創立100周年事業推進・奨学金事業推進・グローバル化推進・施設設備整備推進・課外活動推進の各項目に関する用途指定寄付金枠を設けています。高額寄付者への顕彰制度の充実も図り、寄付金額に応じ「名誉校友」「特別校友」および「貢献校友」の称号記を授与し、本館（研究棟）玄関ホールに設置された銘板にて寄付者の顕彰を行っています。令和5（2023）年3月2日の学校法人天理大学理事会において「天理大学令和6（2024）年度改組にかかる学部・学科の設置および収容定員の変更について」が審議、承認されました。

7月24日に文部科学省へ新学部、学科に関する設置届出申請書類を提出し、9月20日に受理されました。今回の改組は、令和7（2025）年に迎える創立100周年に向けた本学の改革の一環として位置づけられるもので、現在の人間学部と文学部を統合し、新たに人文学部を設置する他、国際学部は、現在の2学科から6学科に再編、従来の体育学部、医療学部と合わせて、計4学部15学科からなる文理融合型の大学として、令和6（2024）年4月より新たに始動します。

文部科学省へは新学部、学科の開設年度の令和6（2024）年度から完成年度の令和9（2027）年度まで、履行状況報告書を提出することになります。

平成30（2018）年度より新設した「宗教主事」は、学内の天理教行事（おつとめまなび等）や伝道実習等に携わり信条教育の充実を図っています。学生生活における学生の信仰上の相談に応じる等、様々な指導やサポートも積極的に行うことを目指して、八号棟にある情報ライブラリーにおいて、週1回（水曜日14：00から17：00）、オフィスアワーを実施しました。

前年度に引き続き、在学生（全学部生）を対象に学修行動調査、入学時アンケートおよび卒業生・修了生アンケートを実施し、学習成果の可視化のための取り組みを進めました。

自己点検・評価については、令和4（2022）年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を

受審し、その結果、令和5（2023）年3月に同協会が定める「大学基準に適合している」と認定（認定期間：令和5（2023）年4月1日から令和12（2030）年3月31日まで）されました。ただし、大学評価結果において、是正勧告、改善課題が示されましたので、令和8（2026）年7月までに同協会へ改善報告書を提出することになっており、現在、同報告の準備を進めています。また、毎年行っている自己点検評価活動として、大学基準協会が定める「大学基準」に基づき設定された「点検・評価項目」について「自己点検・評価のためのチェックシート」を用いて点検・評価を実施しました。

<教育・研究>

令和6（2024）年度学部改組に向けた新学部・学科のカリキュラム改正、履修規則等関連規程の改正を行いました。看護学科では総合教育科目のカリキュラム変更に伴い、文部科学省に看護師学校変更承認申請を行い、承認を得ました。



中国文化大学とデュアル・ディグリー・プログラム

海外留学の新たな取り組みとして、中国文化大学と中国語学科のデュアル・ディグリー・プログラム（DDP）を進めるために関連規程の制定および改正を行いました。

図書館司書、社会教育士では授業科目名等の変更に伴う変更届を各省庁へ提出し、教職課程においては従来の教科での課程認定申請に加え、国際文化学科の社会、公民および外国語学科のスペイン語で新たな申請を行い、認定されました。

また、次年度に向けて「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」申請の準備を行っています。

学外研究助成等の活用としては、本年度の科学研究費助成事業の採択件数は継続分を含めて研究代表者分が54件、研究分担者分が38件で合計92件となりました。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）との共同研究は、3年間の研究計画の2年目にあたり、前年度に引き続き研究活動が行われました。

受託研究に関しては、本年度より新設された医療学部において、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（分担））からの受託研究が旧天理医療大学時代から継続して実施されました。

この他、民間企業との共同研究や、民間の各種助成金等の活用も含め、活発な研究活動が展開されました。

また、学内の研究助成制度や図書出版助成を活用した研究活動とその発表が行われました。

FD活動においては、前年度に引き続きFDオープンクラスウィークに取り組み、全ての教員による授業公開が行われ、新設の医療学部と既存の学部との学部間を超えた参観も行われました。FD研修会は学部単位（専任教員参加必須）で7月と9月に実施されました。

また、「学生による授業評価」アンケートは全学部・研究科を対象として実施されました。アンケートで得られたデータをもとにベストティーチャー表彰を行っています。さらに、教員が自分の授業や指導において投じた教育努力を可視化し、第三者の評価を得て、教育改善に役立てることを目的に、前年度から導入したティーチング・ポートフォリオの更なる活用を促しました。

研究倫理教育に関しては、本年度より導入した論文の剽窃・盗用防止ソフト「iThenticate」の販売元である Turnitin Japan (ターンイットイン・ジャパン) から講師を招き、「身近にある研究不正：盗用・剽窃の可能性を未然に防ぐ論文執筆とは」というテーマで、論文の剽窃・盗用の実際や「iThenticate」を用いたその予防策の講演に加えて、コンプライアンス研修を兼ねた研究倫理教育研修会を行いました。参加対象は教員、公的研究費等運営・管理責任者、事務処理担当者およびその他学校法人管内専任教職員希望者並びに大学院生で、欠席者には当日の研修会を録画したYoutube限定公開の動画を視聴してもらい、対象者全員が受講しました。

TA (ティーチング・アシスタント) を対象に前期・後期と1回ずつ研修を開催し、CALL教室で教員のアシスタントをするSA (ステューデント・アシスタント) についても、研修を実施しました。

情報ライブラリーに関しては、コロナ禍による座席の間隔を戻し、受付カウンターのシート等も撤去しましたが、希望者が利用できるようにアクリルボードや手指消毒用品を配置する等基本的な対策は継続しています。天理医療大学との統合後は情報ライブラリー分館 (別所キャンパス) として全てを引き継いで運営することになり、3キャンパスでの検索・取り寄せ・返却を可能にしました。電子リソースのコンテンツも格段に増加し、天理よろづ相談所病院医学図書館との相互利用も可能となりました。また、橿原市との包括連携協定事業の一環として、「橿原市立図書館YA (ヤングアダルト) コーナー新設事業」へ天理大学として参画しています。

学術情報リポジトリ (機関リポジトリ) については、既存の学部の研究成果の掲載に加え、本年度開設の医療学部の統合前の研究成果である『天理医療大学紀要』を掲載する等、医療関係の情報の充実も図りました。

学術刊行物については、『天理大学学報』第75巻第1号～第4号 (通巻第264輯～267輯) を刊行し、「医療学部編」を新たに刊行しました。その他の学内刊行物としては、各研究室等で『天理大学生涯教育研究』第28号、『天理大学社会福祉学研究室紀要』第26号、『山邊道』第64号、『史文』第26号、『古事』第28号、『中国文化研究』第40号、『教職教育研究』第6号、『天理大学史研究紀要』第4号等を刊行しました。

<国際交流>

本年度は、海外の2大学と大学間協定を締結しました。新規協定校は、キルギス共和国のビシケク国立大学 (6月1日付) と台湾の文藻外語大学 (8月11日付) で、本年度末での海外交流協定校の総数は、25カ国・地域55大学3機関になります。また、本年度の事業計画として挙げていた中国文化大学 (台湾) とのデュアル・ディグリー・プログラムが締結 (8月10日付) に至りました。

学生交流については、協定校からの短期 (交換) 留学生を11カ国・地域の19大学・機関から38名を受け入れました。派遣においては、9カ国・地域18大学の協定校へ交換留学生36名を、5カ国・地域6大学へ認定留学生6名を送り出し、年間42名の学生が留学に出向きました。

各種海外研修プログラムについては、本年度の夏期休業期間中に国際学部外国語学科中国語専攻の「海外語学実習」が台湾の台北にて実施され、学生23名が参加しました。春期休業期間中には、国際学部外国語学科英米語専攻の「海外語学実習」がアメリカのケンタッキー州（学生15名が参加）とフィリピンのマニラ（学生5名が参加）で実施、韓国・朝鮮語専攻では韓国のソウルにて実施（学生26名が参加）、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻ではスペインのガリシア州にて実施（学生7名が参加）されました。また、「国際スポーツ交流実習」（春期休業期間中）もドイツのマールブルクとケルンにて実施され、体育学部と人間学部にも所属する学生26名が参加しました。「国際参加プロジェクト」についてはタイのマハーサーラカーム、チェンマイ、バンコクにて実施され、人間学部、国際学部、体育学部、医療学部にも所属する学生が11名参加しました。

海外インターンシップ制度による研修については、2カ国・地域（アメリカ、タイ）で実施され、国際学部と医療学部にも所属する学生5名が参加しました。さらに、本年度の事業計画に挙げていた天理市、独立行政法人国際協力機構関西センター、本学の三者連携による本学柔道部卒部生のエジプトへの長期派遣（1名、令和5（2023）年10月29日出発から2年間）・柔道部在学生の短期派遣（5名、令和6（2024）年2月19日出発から1カ月間）が実施に至り、エジプト柔道連盟との協力連携が実現しました。



柔道部部員エジプト派遣

第33回目となる夏期日本語講座については4年ぶりの開催となり（開催期間：7月8日～20日）、8カ国・地域の8大学2機関から81名の受講生を迎えて開催しました。授業は日本語の習得レベルに合わせた3つのクラスに分けて実施され、日本人学生カウンセラー56名がサポートにあたり、授業以外の生活面でもサポートを行う等、学生同士の交流を深めました。

「iCAFé（アイ・カフェ）」については、留学生と日本人学生の交流の場として、本年度も英語をはじめとする外国語会話力向上に貢献しています。本年度の春学期は9言語27名の言語チューターを配置し、延べ498名が参加しました。秋学期は9言語23名の言語チューターにより延べ335名が参加、年間833名の日本人学生や留学生が外国語での会話指導を受けました。

また、天理市との共催で立ち上げた「Tenri English Village（天理英語村）」については、年間25回開催し、小学生対象の「こどもクラス」には212名が、中学生以上の「一般クラス」には302名の計514名の参加がありました。

<就職支援>

本年度は前年度同様、少人数単位のセミナー・ガイダンス等を展開するとともに、コロナ禍以前の大人数マスタ型ガイダンスも開催し、学生の就職支援に取り組みました。学生に対する行事等案内の連絡周知は、これまでに構築したクラス担任やゼミ担当者を経由するシステムを利用し、教職協働の活動をさらに推進しました。

4年生には、Webでのセミナーや個人面談、対面での面接対策やキャリアカウンセリング等も随時実施し、オンラインにより自宅からも受講できる環境を整え、積極的な参加を促しました。

また、採用活動のために来学する企業等を積極的に受け入れ、個別学内説明会を頻繁に実施する等、4年生の就職活動における出会いの場を提供しました。

3年生対象の就職活動準備対策については、大教室での対面式で第1回（4月）から第4回（7月）を開催しました。加えて、実力養成1日研修会（就活の流れから自己分析、自己PR・履歴書作成、SPI試験対策等を1日で復習）を、10月と12月に2回実施しました。また2月上旬には、これまで自粛してきた対面での学内合同業界研究セミナーを、20社に絞り込んで復活開催するとともに、業界研究Webセミナーも継続開催し、卒業生が在籍する多くの優良企業の参加を得て、良い出会いの機会を得ることができました。

10月から1月にかけては、面接の実践対策講座を計5回開催しました。全日程、2時限から4時限の間に講座を開催し、学生が将来の進路選択を行い、社会で働くために必要なマインドセットから始まり、実際仕事に取り組む上でのマナー・エチケット面も含めて、面接を実際体験する場を設けました。そして、その場面において一人ひとりの表現をフィードバックすることで、進路・就職活動の実践的な指導を施しました。インターンシップについては、興味・関心のある業界・企業であれば積極的に参加するよう促しました。また、前々年度から実施している3年生対象学科・専攻・クラブ別進路・就職ガイダンスを、希望する学科専攻に対して対面型ミニマム単位で開催しました。この形式により、教員の積極的な関わりが増えるとともに、学生一人ひとりの状況を把握できる場になる等、波及効果が生まれました。

本年度から新たにスタートした医療学部では、臨床検査学科が開催する進路情報説明会にキャリア支援課スタッフを講師として、これまで以上、より緊密な求人情報共有を行い、選択肢拡大を目指していきます。

就職準備のためのガイダンスについて、「学生生活を経験」→「これまでの経験のふりかえり」→「ふりかえりから将来のキャリアをデッサン」→「経験値や価値観を更新しながら社会に発信」といった経験学習のサイクル（自己理解→内省→仕事理解→実践のサイクル）を学生自身が行うことができるよう、経験学習のコンセプトを伝えるようにしました。

1・2年生対象の進路・就職ガイダンスについても、大人数集合型のガイダンスとして6・7月に2回ずつ開催しました。特に、就職活動の早期化にますます拍車がかかる2年生には、新たな取り組みとして適性検査受診後解説セミナーを企画し、早期の意識づけを試みました。

前年度から始めたキャリア科目の担当教員との連携を強化し、正課授業を通して学生へのキャリア支援の充実を図るため、キャリア支援課スタッフが進路・就職活動の準備について解説する授業を本年度も担当しました。

「就職活動の進め方について」「履歴書の書き方」「SPIについて知る」の授業はキャリア支援課スタッフが担当し、実際の進路・就職活動で必要となることに関してのレクチャーを行い、進路・就職に対する動機づけの機会を提供しました。長年開講している「キャリアアップ講座」は、対面を基本とし、状況に合わせてオンライン対応しながら開催しました。コロナ禍以降、採用形態が大きく様変わりしていますが、さらなる就職活動時期の早期化に学生が柔軟に対応できるよう、今後も引き続きサポートを続けていきます。

<学生支援>

令和2（2020）年4月からスタートした「高等教育の修学支援新制度」は、800名を超える学生が支援を受け、年間を通してその事務作業に取り組みました。

大学院生には、「天理大学大学院研究奨励奨学金」を春学期に2年生3名、秋学期に1年生4名に授与しました。学部生には、「天理大学奨学金」による奨学金を10月初旬に2年生6名、3年生8名に授与しました。

「薬物乱用防止および交通マナー講習会」を天理警察署の協力を得て6月に実施するとともに、外部講師を招聘し、熱中症対策およびAEDの学習キットを使用した心肺蘇生法についての講習会を実施しました。

「改正障害者差別解消法」が令和6（2024）年4月1日より施行されることにより、私立大学でも合理的配慮の提供が義務化されることになり、障がいのある学生を支援するための体制を一層整えていく必要があることから、日本学生支援機構（JASSO）がオンデマンド配信を行っている「障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー（基礎編）」を学内のグループウェアで案内し、全教職員に対して障害者差別解消法の理解に努めました。

本年度は、本学が奈良県大学学生指導協議会の当番校として、奈良県内の各大学・短大の学生支援担当部署と学生支援に関する課題およびその対応について、情報共有を行いました。また、東海・北陸・近畿地区学生指導研究会の近畿地区部課長研究会の当番校として、厚生労働省近畿厚生局麻薬取締部から講師を招聘して薬物乱用防止にかかる講演会を開催し、近畿地区の34の高等教育機関から38名の参加がありました。

<入試>

入試広報活動については、様々なイベントを開催することができました。特にオープンキャンパスは前年度同様、6回開催しました。本年度は医療学部のある別所キャンパスや体育学部キャンパスにおいても実施しました。また、高等学校の進路指導担当教員を対象に行っている「入試懇談会」を大和八木駅前の会場において7月3日に開催しました。

新型コロナウイルスの5類感染症移行後は、会場型の入試相談会や高等学校を会場とする高校内ガイダンスの回数を徐々に増やし、高校内ガイダンスは延べ189件、会場内ガイダンスは43件、留学生対象ガイダンスは18件と実績を残しました。

特に天理高等学校に対しては「ミニオープンキャンパス」を開催し、天理高等学校第一部の保護者懇談会での案内に加え、学校内で実施される「天理大学アワー」で、本学への入試をはじめ課外活動や奨学金等、様々な質問に対する相談業務を実施しました。

学部学科改組の申請の関係で、入学者選抜にかかる具体的な広報活動ができなかったため、申請が受理された直後の9月23日・24日の2日間で計4回「入試直前説明会」



入試直前説明会

を実施しました。総合型選抜の特徴を中心に、学校推薦型等の入試制度も含めて会場を分け、入試や学生生活等の各種相談会や総合型選抜のエントリーのための機器操作説明会も実施しました。受験生、保護者にも好評であったため、今後も継続していくことを検討しています。

広報活動については、高校2年生の冬から参照できる「大学発見ナビ」（進研アド〈Benesseグループ〉）や「スタディサプリ for SCHOOL」（リクルート）のWeb掲載に加え、その後の大学選びやオープンキャンパス情報等を検索できるWeb媒体として「マナビジョン」（Benesse）、「スタディサプリ進路」（リクルート）、「マイナビ進学」（マイナビ）等への掲載を行いました。さらに、新聞媒体等での入試・オープンキャンパス情報の告知も含め、様々なメディアを通じた広報活動を行いました。

<高大連携>

天理高等学校とはこれまで緊密に高大連携事業を実施してきましたが、より一層の連携を図るために引き続き定期的な会合を持ちました。また、連携協定調印高校である奈良育英高等学校および奈良県立高取国際高等学校の生徒を対象に「高大連携」行事の一環として、オンラインおよび対面の外国語レッスンを実施しました。さらに奈良育英高等学校には探求の時間としてSDGsにかかる授業を提供するとともに、高校が設定した「連携の日」に大学説明会を実施しました。また、今年度初めて高取国際高等学校の「ミニオープンキャンパス」を開催しました。3月には、奈良県立五條高等学校と新たに連携協定を調印し、それに先立ち、生徒がアカデミックインターンシップとして本学の授業や大学食堂を体験し、施設を見学しました。

近年ニーズが高まっている高校単位の「大学見学」は、オープンキャンパスに次いで本学を直接紹介できるイベントとして位置づけ、積極的に受け入れ、模擬授業や施設見学を通して本学の学びの内容や少人数教育の良さ、令和6（2024）年4月からの学部学科改組についても伝えることができました。



五條高校との高大連携調印式

<広報>

本年度、天理大学は旧天理医療大学と統合し、5学部体制として新たにスタートを切りました。この統合に伴って、天理大学ホームページ・入試情報サイトにおいて、医療学部ページを追加する改修を行うとともに、トップページのデザイン変更を4月に実施しました。

大学広報誌『はばたき』は、第53号および第54号を発行し、第53号は、学長インタビューを巻頭特集として掲載し、『「知る」ことから、全てが始まる。』をテーマに活躍する卒業生、在学学生を紹介しました。第54号は、キャリア特集として「挑戦が、はじめの一步。」のテーマのもと、大学での学びをキャリアに活かした卒業生を

紹介するとともに、本学のキャリア教育について特集を組みました。両号とも、保証人（保護者）並びに企業を含む一般向けに、本学の取り組みを紹介する意図で制作しており、庶務課、キャリア支援課と連携して関係各所に配布し、本学の学び、キャリア等の活動を周知しました。

5月には、『大学案内2024』と学部別の冊子『学部パンフレット2024』を発行し、入試広報活動に活用しました。大学案内・学部冊子は、令和6（2024）年4月に迎える改組に関する情報を基に編集し、大幅な内容変更を行いました。

また、4月、5月には、奈良県内の主要駅11カ所に改組告知のポスターを2週間程度、掲示しました。このポスターは、大学案内の表紙と連動しており、A4サイズのフライヤーとして展開し、入学課および各学科教員の広報活動に利用しました。



広報誌「はばたき」

Web広告については関西圏を中心に展開し、5月、6月はオープンキャンパス、9月は入試直前説明会、9月から2月まではインターネット出願とそれぞれ告知を行いました。

9月20日付で文部科学省から認可を受けた学部改組について広く周知するため、9月22日に記者発表を行い、奈良県内の報道各社が全て参加し、新聞・テレビにおいて改組が報道されました。

入試広報のツールとして前年度に引き続き「公式LINE」にて、47本の本学の情報発信をしました。「オープンキャンパス」「入試情報」「ニュース」の3つのジャンルで発信するとともに、登録ユーザーの推移、開封・クリックの傾向等配信分析を行い、ユーザーに読まれる情報発信に努めました。

Webコンテンツは、トリプルメディア（オウンドメディア・ペイドメディア・アードメディア）の観点から、本年度もホームページ・SNS・Web広告に連動する形で展開しました。特に本年度は、改組に関する情報を軸に、報道各社がニュースバリューを認める社会貢献の活動を広報視点で意図的に展開し、マスメディアで取り上げられるタイミングに合わせて、本学の情報発信を実施しました。

また、準備期間を含め3年がかりで作業を進めてきた天理大学ホームページのフルリニューアルは、令和6（2024）年3月26日に完了しました。リニューアル直前の12月には、各学科、各事務部局のホームページ担当者に対して、新ホームページの更新に関するレクチャーを2日間に渡って開催し、リニューアル公開以後は大きなトラブルもなく運用されています。

<社会連携・地域連携>

包括連携協定を締結している天理市からの要請により、天理市の姉妹都市・韓国の瑞山市との交流事業（10月5日から11月16日）は、韓国・朝鮮語専攻の学生が通訳業務を行い、この窓口業務を広報・社会連携課で担いました。

天理市との連携については、教育研究、地域貢献といった様々な分野での連携活動を学生、教職員が天理市と協働で実施しました。「天理市行政施策貢献学生認定制度」では、企画からイベント運営に至るまで自主的、貢



天理市行政施策貢献学生

献的に参画することにより、協働のまちづくりに寄与したことが評価され、天理市行政施策貢献学生として12名の学生が認定されました。

公開講座は、6会場25講座を実施し、本年度の公開講座の延べ参加者数は904人となりました。公開講座のさらなる充実に向け、奈良県の生涯学習財団と協議を行い、奈良市生涯学習センターにおいて公開講座を実施することになりました。

10月より天理市と協議を開始し、天理駅前広場の活用として、南団体待合所をサテライトキャンパスとして本学が運営することになりました。これにより本学と包括連携協定を締結している株式会社モンベルと「天理大学・モンベル共同体」結成調印式を3月27日に行い、駅前広場に関する様々な業務を天理市から委託されることになりました。

<課外活動>

新型コロナウイルスが5類感染症になり、制限下の課外活動から従来の課外活動を取り戻す動きに移行し、公式戦はもちろんのこと、感染対策に考慮し遠征試合や合宿を行いました。

例年2月に、各団体のリーダーが集い、宿泊を伴って実施していた「天理大学リーダーズキャンプ」を前年度に続き一日限りの行事として開催しました。「リーダーシップ」について、複数のタイプのリーダー像を示し、天理青年会議所の理事長等企業経営者を招き、話を伺い、班ごとに分かれて、「理想のリーダー像」について議論し、最後は全体で、複数のリーダー像について研修を行いました。

本年度は多くの体育系クラブが校名発揚に寄与する見事な結果を残しました。

合気道部は、「第43回関西学生合気道競技大会 短刀乱取競技女子個人戦・短刀乱取競技女子団体戦」「第54回全日本学生合気道競技大会 短刀乱取競技女子団体戦」「第3回合気道世界選手権大会 演武競技乱取基本の形17本（徒手・無段）・演武競技乱取基本の形17本（徒手・無段）・短刀乱取競技女子の部Cadet」の各大会で優勝しました。

ウエイトリフティング部は、「第38回関西学生選抜ウエイトリフティング選手権大会 67kg級・102kg級」「第70回関西学生女子ウエイトリフティング選手権大会 64kg級」「第15回近畿女子ウエイトリフティング選手権大会 71kg級」の各大会で優勝しました。

硬式野球部は、「阪神大学野球連盟2023年度春季リーグ戦、秋季リーグ戦」で優勝し、「第72回全日本大学野球選手権大会」「第54回明治神宮野球大会」に出場しました。また、その大会においては、応援団チアリーダー部が応援に駆けつけました。



硬式野球部リーグ優勝

柔道部・男子は、「第42回関西学生柔道体重別選手権大会 60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・100kg超級」「第73回関西学生柔道優勝大会」「第42回全日本学生柔道体重別選手権大会100kg超級」で優勝し、国際大会では「2023年フランスジュニア国際大会 100kg級」「2024年グランプリポルトガル 60kg級」「2023年チェコジュニア国際大会 66kg級」で日本代表として活躍しました。

水泳部は、「第46回関西学生春季室内選手権水泳競技大会 男子4×100mフリーリレー・女子4×100mフリーリレー・女子4×100mメドレーリレー・男子50mバラフライ・男子50m背泳ぎ・男子50m自由形」で優勝しました。

創作ダンス部は、「第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」でNHK賞（2位相当）を受賞しました。

バレーボール部・男子は、「FISUワールドユニバーシティゲームズ」で日本代表として活躍しました。

ホッケー部・男子は、「2023全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」で優勝し、「第9回AHF男子ジュニアアジアカップ」で6名が日本代表として活躍しました。



ホッケー部男女で優勝

ホッケー部・女子は、「2023年度関西学生ホッケー春季リーグ」「第42回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」で優勝し、「第8回AHF 女子ジュニアアジアカップ」には3名、「第10回FIH 女子ジュニアワールドカップ」では4名が日本代表に選出され、さらには「第19回アジア競技大会」「第33回オリンピック競技大会最終予選会」で日本代表として活躍しました。

レスリング部は、「令和5年度西日本学生レスリング選手権大会 フリースタイル97kg級」で優勝しました。

スポーツライミングでは「IFSCアジアコンチネンタルカップ（BLS）リヤド2023」で日本代表として出場し、リード種目で優勝しました。

文化系クラブは、雅楽部が「第54回天理公演」「第43回東京公演」を行いました。

学生自治会（心光会）は、体育大会を従来の規模に戻し、医療学部学科会を加えて実施しました。

少年会育成講習会については、天理教少年会本部との話し合いの結果、実施できませんでしたが、次年度は開催する予定です。

11月の大学祭は、本学伝統の外国語劇を行うことはできませんでしたが、巨大灯籠の展示を復活させ、また来場者と学生が直接交流する企画を設け、YoutubeとSNSで告知をしました。従来と比べると短い期間でしたが、新たなことにも取り組み、大勢の方が訪れ大盛況でした。学科会については、各学科の幹部学生が立て直しを図り、医療学部を含め、最低一つの活動に全ての学科が参加しました。

信条教育活動では、毎年恒例となっている学生信仰団体よふぼく会主催の「夏期伝道」を今年度は従来と趣向を変えて実施しました。「全学ひのきしんデー」は従来通り実施し、多くの学生と教職員がキャンパス内の清掃

活動に勤しみました。

天理教教会本部行事への参加については、夏期休業中に開催される「こどもおちばがえり」は、規模を縮小し、4年ぶりに開催され、学生がひのきしん活動に汗を流しました。また、年始に実施される「お節会」のひのきしんに多くの学生が参加し、本学の理念である「宗教性」「貢献性」を体験する良い機会となりました。

また、普通授業期間中には、天理教教会本部で毎朝昇殿参拝を実施しました。年3回実施する「おつとめまなび」は、従来通りの形式で開催し、卒業生2名の感話が好評でした。

<施設・設備関係>

杣之内キャンパスでは、令和4（2022）年度末に閉校した天理教校学園高校の体育館を引き継ぎ、「天理大学別所第一体育館」として、レスリング部（天理教校学園高校時代から使用。以下、カッコ内は旧活動場所）、合気道部（天理高等学校第二柔道場）、バドミントン部（杣之内第二体育館）の3部の利用が始まりました。これにより、老朽化した杣之内第二体育館は、令和5（2023）年度をもって使用を停止することとなりました。

また、二号棟では、LED照明更新工事や4階教室（24A・24B）タイルカーペット張り替えおよび24B教室の椅子一部入れ替え工事を、八号棟では全館空調設備更新工事を行いました。

さらに、大学保護者会（後援会）から支弁していただき、平等坊グラウンド周辺およびネット際草刈り、黎明館カーペット張り替え、弓道部女子更衣室雨漏り修理等を行いました。

田井庄キャンパスでは、総合体育館西側、六号棟西側および陸上競技場にミストシャワー設置工事を行いました。また総合体育館電源増設工事、剣道場床面の張替工事、研究室増設に伴う七号棟の改修工事を行いました。修理工事の主なものとして総合体育館排煙窓関係、雑用水ポンプ、総合体育館バコティンヒーター等を行いました。

別所キャンパスでは、大教室5部屋（十一号棟3階の3部屋、十二号棟4階の2部屋）と小教室4部屋（全て十二号棟2階）の照明を既存の蛍光灯からLEDに入れ替える更新工事を実施しました。十一号棟1階では未利用となっていた（旧）用務員室を改修し、保健室と学生相談室を移転させ、新しい環境を整えるとともに、各部屋を教員の研究室にリフォームしました。また、屋外の駐輪場に隣接する中庭の樹木を伐採・抜根し、アスファルトが隆起する危険な状態となっていた広場を全面的に改修し、安全と利便性を確保しました。

情報システム関係については、教育系パソコンの維持・拡張関係では、33C教室のマルチメディア化を新たに行い、パソコンの新規設置をしました。また、四号棟3階のマルチメディア教室のパソコンの入れ替えも行いました。

ネットワークの維持・拡張関係では、学生のパソコン必携化が令和6（2024）年度に完成することから、まずはPC第3教室と第9教室の生徒用パソコンを撤去し、学生の必携パソコンが利用できるよう、学生用無線アクセスポイントを設置しました。ICTヘルプデスク（契約常駐員）関係では教員からのヘルプ対応を行いました。校園全体のネットワークの維持管理および故障対応やアクセスポイントへの接続遅延等のトラブルの問い合わせ対応や包括ライセンスの管理と継続等を行いました。

教育および事務パソコンや業務システムでのICT技術は、進歩と普及を加速させ、本学においても年々増設・拡大傾向にある中、システムやデータベース保全、ネットワーク安定化、セキュリティ保証、ライセンス管理、危機管理等、これら安心・安全のための担保（設備面、技術面、人員面）が益々重要な課題となっています。今後もこれら担保充実へ向けての人材育成と整備作業を計画、実施します。

<スタッフ・ディベロップメント関係>

「志願者獲得に向けた昨年度入試にかかる分析結果について」と題して令和5（2023）年7月26日に開催しました。当日参加できなかった教職員はオンラインでの視聴を義務づけ、期間内に全教職員が研修を行いました。

また、従来から取り組んでいる人権研修を、今年度も各学部、事務部署ごとにそれぞれ工夫した内容で実施しました。

天理図書館

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心がけました。

図書整理は、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しています。

また、一般図書のカード目録の遡及入力は、92%を終えました。令和5（2023）年度も前年度に引き続き、主に和漢古書、明治期刊行書、洋書の遡及に取り組み、1,916冊の入力を行いました。和漢古書の遡及入力、古典籍資料を多く所蔵する当館の使命であり、学会各方面の利用に供し、新たに重要資料であることが確認される等、学術研究の進展に寄与することができました。

閲覧サービスは、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替える等、見直し作業を行っております。貴重書（近世文書を含む）の閲覧は、延べ204名2,304冊の閲覧があり、多数の研究者に利用していただきました。

当館の利用案内として、5月8日から6月9日の期間中、天理教校本科実践課程、同研究課程、専修科2年生を対象に、また、4月17日から1月23日の期間中、天理大学1年生および卒論利用のための3、4年生を対象としたオリエンテーションを行い、計35回449名が来館しました。

館内の見学は、駐日ネパール大使をはじめ、国内外の研究者や学校関係者等の来客が71件682名あり、閲覧室、展示室等を案内しました。また、天理大学のオープンキャンパスの際は、キャンパスツアーや自由見学で来館された方を案内しました。加えて、新聞・テレビ等において、当館建物の紹介を中心とした報道がなされ、天理



「開館 93 周年記念展」展示室風景

の名を広く知らしめることとなりました。また前年度に引き続き、個別の見学や有料の建物見学ツアーの申し込みが続いています。

所蔵資料の画像掲載利用は、211件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送等で当館所蔵資料を利用していただきました。

所蔵資料の保存対策として、『源氏物語』河内本等の貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。なお、約350点から成る貴重な琉球関係資料群である『琉球古文書』は、修理費の全額を朝日新聞文化財団からの助成金と個人からの使途指定寄付金（図書修復サポート資金）で賄い、修理をしました。

所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催しています。本年度は、有料化して初めてとなる天理ギャラリー第179回展「源氏物語展－珠玉の三十三選－」を5月14日から6月11日まで開催し、983名の来場者がありました。

また、開館93周年記念展「源氏物語展－珠玉の三十三選－」は、天理参考館を会場として、10月18日から11月27日まで開催し、4,054名の来場者がありました。会期中の11月3日には、岡嶋偉久子氏（天理図書館稀書目録室長）による記念講演「源氏物語－その写本の魅力－」を開催し、141名の来場者がありました。

出版活動は、天理図書館報『ビブリア』第159号（5月刊）、同第160号（10月刊）の他、天理ギャラリー179回展および開館93周年記念展の展覧会図録を出版しました。

対外的な活動では、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力し、また、同協会地域資料研究会から委員の委嘱を受けて、地域資料について調査・研究、情報の共有化を図っています。特に本年度は、部会長館として当館において企画委員会と総会を開催し、8月8日には、天理大学九号棟ふるさと会館を会場に奈良県図書館協会図書館研究大会を開催し、中学・高校の司書教諭や公共図書館、大学図書館等から約100名が参加しました。当館からは、大学・専門図書館部会を代表して「天理図書館“文学ナビ”の紹介」と題する発表を行いました。当日、昼休みを利用して天理図書館の見学会を開催し、75名が参加しました。

また、当館が同部会の調査・研究委員会委員長校として会議を開き、検討し、11月9日には、京都女子大学図書館において研究集会（見学会）を開催し、13名が参加しました。

また例年、私立大学図書館協会、同西部地区部会、同西部地区部会京都地区協議会の各総会、研究会に出席する等、加盟各館と連携、協力していますが、新型コロナウイルスの流行以降はオンライン開催となり、総会もメール会議となる等、活動が縮小されました。

施設・設備面は、東西閲覧室等のLED照明更新工事および分電盤更新工事を行いました。また、館内外の日々の清掃はもとより、曝書期間を利用して、正面ホール、廊下、階段、休憩室等の清掃・ワックスがけを行い、環



「開館 93 周年記念展」講演会風景

境美化に取り組みました。

また、耐震修繕工事に向けて保存活用計画を策定すべく、関係各所と協議し、令和6（2024）年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付を文化庁へ申請しました。

おやさと研究所

令和5（2023）年度も、本研究所に託された教内外からの期待に応えるべく、着実に歩みを進めました。

「天理教事典研究会」（月例）では、『天理教事典 第3版』の天理教用語の読み直し・内容の検討作業を進めています。この研究活動は項目の記述、特に教語について、より充実した内容を目指すものであり、加筆や修正、新項目の追加および項目再考も幾つかありました。本年度は、『天理教事典』の教語項目のデータ化を目指した取り組みを継続し、この2年間の報告書を冊子にしました。

「公開教学講座」は、「信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ（9）」をテーマとして動画配信の形式で開催しました。前年度に引き続き『稿本天理教祖伝逸話篇』を手掛かりとして、天理教の信仰の世界の一端を明らかにし、信仰的理解をさらに深めることを目指しました。令和5（2023）年6月、7月、9月、10月、11月、令和6（2024）年1月のそれぞれ1日に配信しました。周知や配信の方法等については今後も工夫・改善をしていきます。内容は、「167 人救けたら」井上昭洋（おやさと研究所所長）、「168 船遊び」尾上貴行（おやさと研究所研究員）、「122 理さえあるならば」金子昭（おやさと研究所研究員）、「146 御苦労さん」澤井治郎（おやさと研究所研究員）、「165 高う買うて」島田勝巳（おやさと研究所研究員）、「113 子守歌」堀内みどり（おやさと研究所主任）でした。なお、その要旨は『グローバル天理』に掲載し、またその本編については「伝道参考シリーズ42」に掲載予定です。

特別講座「教学と現代」（第19回）は、令和6（2024）年3月25日に天理大学第1会議室を会場として、天理総合人間学研究室と天理ジェンダー・女性学研究室の共催で開催しました。熊田一雄氏（愛知学院大学准教授）を講師に迎え、「社会の中で問われる宗教の役割と使命—格差・ジェンダー、そして宗教の公共性—」をテーマとし、堀内みどり（おやさと研究所主任）が「ジェンダー論の視点から」、澤井真（おやさと研究所研究員）が「宗教の公共性の視点から」と題して、それぞれパネル発題を行いました。

「研究報告会」は主に研究員および学内の研究者が中心となり、現在取り組んでいる研究成果の一端の報告等10人の発題者で、以下のとおり開催しました。

第356回（4月19日）「オーストラリアの天理教—ブリスベンでの現地調査報告—」尾上貴行（おやさと研究所研究員）、第357回（5月29日）「出張報告：カトマンズ」堀内みどり（おやさと研究所主任）、第358回（7月6日）「静岡市における朝鮮通信使の展開と共生社会の実現—行政・市民団体・地域組織・在日コリアン団体の取り組みを中心に—」魯ゼウオン（天理大学国際学部教授）、第359回（7月31日）「原典解読における実証的方

法論及びその適用についての試論—「おふでさき」第3号をめぐって—金子昭（おやさと研究所研究員）、第360回（9月11日）「幕末維新时期における天理教の形成—転換期における再聖化という視点から—」岡尾将秀（おやさと研究所受託研究員）、第361回（9月27日）「諸井慶徳の宗教論—教義学との連関をめぐって—」久保大生（東北大学大学院生）、第362回（10月24日）「近代期天理教と哲学—高崎倫常の神学思想形成におけるカント哲学の影響について—」ジェレミー・ウッド（天理大学国際学部講師）、第363回（11月29日）「車いすスポーツへの挑戦」糸賀亨弥（NPO法人ホスピタルフットボール協会代表理事）、第364回（1月31日）「バークリ哲学における神の存在に関する諸論証」山川仁（天理大学非常勤講師）、第365回（2月26日）「歴史的建造物の保存と活用、価値付けと活かす、伝える、育む」田中梨絵（天理大学人間学部講師）。これらの報告会の要旨は、『グローバル天理』に掲載しました。

「伝道研究会」は、金納理一氏（天理教蒲池分教会長、社会福祉法人学正会理事長）を講師に、第69回（12月27日）「社会福祉法人学正会の歴史と現在の活動について」と題して、話を伺いました。

「宗教研究会」は、第33回（11月28日）「別の世界を求めて—アブラム・デヴィッドソンのキプロスとトルコへの旅—」のテーマで、ローラン・ミニョン氏（オックスフォード大学教授）による研究発表がありました。これらの研究会の要旨は、『グローバル天理』に掲載しました。

出版活動としては、月刊『グローバル天理』令和5（2023）年4月号～令和6（2024）年3月号、『おやさと研究所年報』第30号、『Terri Journal of Religion』第52号、「伝道参考シリーズ41」として『天理教東南アジア伝道 資料と先人の物語』（佐藤庄司著）を刊行しました。また、「グローバル新書18」として『「碍」の字標記問題再考』（八木三郎著）の編集作業を行いました（令和6（2024）年度刊行予定）。

天理参考館

令和5（2023）年度も、前年度に引き続き、企画展を含めた各種イベントを開催しました。

博学連携の充実を図り、本法人の各施設や天理市内の小・中学校への当館利用促進の働きかけを行いました。また、天理市教育委員会主催の初任者研修（8月）を当館にて開催しました。

常設展示（「震災復興展示—民俗と歴史—」（平成27年7月～）を含む）のほか、第92回企画展「近鉄電車展Ⅱ—大和ゆかりの路線100年—」（4月～6月）、第93回企画展「インドのヒンドゥー世界」（7月～9月）、天理図書館開館93周年記念展「源氏物語展—珠玉の三十三選—」主催：天理図書館（10月～11月）、第94回企画展「くらしの道具—今昔モノがたり—」（1月～3月）



第 92 回企画展「近鉄電車展Ⅱ」

を開催しました。



天理ギャラリー第180回展
「アンデスのツポ―器で旅する北ペルー―」

天理ギャラリー展は、日本・ペルー外交関係樹立150周年記念 第180回展「アンデスのツポ―器で旅する北ペルー―」（9月～12月）を開催しました。

企画展・天理ギャラリー展関連イベントとして開催した記念講演会、ワークショップ、演奏会、ギャラリートーク（展示解説）および体験イベント等は好評でした。

また、令和2（2020）年度に開催した天理大学附属天理参考館・天理図書館創立90周年特別展「大航海時代へ―マルコ・ポーロが開いた世界―」は岡山市立オリエント美術館（岡山）にて巡回展を開催しました。

この他トーク・サンコーカン（公開講演会）を7回開催しました。ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」を、前期・後期に分けて開催しました。さらに、天理図書館開館93周年記念展では記念講演会「源氏物語―その写本の魅力―」を開催しました。

本年度は連続講座「世界遺産を巡る古代アンデス史入門」を開催し、「世界遺産を巡る」をテーマに荒田恵（学芸員）による講座を3回実施し、好評でした。

毎週月曜日に学芸員がテーマを設けて常設展示を解説するマンデートークは、計41回実施しました。

また、ミュージアムコンサート「参考館メロディュー」（天理教音楽研究会共催）は8回開催しました。

天理教教会本部主催の「こどもおぢばがえり」行事として、7月27日から8月6日まで常設展示を見学しながら謎解きを行う博物館「サン・ロレンソ1号 君からのSOS」を実施しました。

平成21（2009）年度から寄贈資料の整理、登録業務を進め、通常業務としては生活文化・考古美術資料の収藏品および研究用図書の実態を図り、資料の調査研究、整理、修復、保存処理を行いました。さらに、収蔵資料データベース用サーバーの運用に伴い、移行した資料データベースの確認、照合作業を行いました。

図書関係では、未登録本の整理、蔵書チェックを通常業務と平行して行い、また蔵書目録データの修正作業および新しいデータベースソフトへの移行を実施しました。

出版活動としては、『天理参考館報』、『企画展図録』、『天理ギャラリー展図録』、『天理参考館ニュースレター』を刊行しました。

広報活動としては、当館公式ホームページ、X（旧Twitter）による情報発信の機会を増やし、即応性のある情報を公開・更新しました。また、次年度に予定しているホームページの外部サーバーへの移設に伴うコンテンツの見直しを行いました。

さらに、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、チラシ等を発行する等、館活動の情報発信を継続し、充実を図りました。

その他、資料熟覧、資料写真掲載、企画展・天理図書館開館記念展開催に伴う取材の対応等を行いました。

令和5(2023)年度は、新入生400名を迎えて全校生徒1,229名でのスタートとなりました。

5月8日から、新型コロナウイルスが5類感染症になり、授業や学校行事、部活動等の学校生活における行動制限が緩和され、ほぼコロナ禍以前に戻ることができました。

令和4(2022)年度の朝の学校参拝は、行動制限が緩和され、週3回(毎週木・金・土曜日)実施していましたが、本年度は4月から毎朝実施できるようになりました。

4月の教祖誕生祭、10月の秋季大祭、1月の春季大祭には、全校生徒・教職員が参拝し、4月の婦人会総会には女子生徒が、11月の青年会総会には男子生徒が参加しました。また、7月27日から8月6日に開催された「こどもおぢばがえり」には、761名の生徒が参加し、ひのきしんに汗を流しました。1月5日から7日に開催された天理教教会本部の「お節会」では、生徒・教職員がひのきしんを行いました。



おせちひのきしん

全校生徒を対象とした教話では、6月に世古昌人氏(天理教海外部 人材育成委員会 主任)を講師に、「今あたりまえの素晴らしさ。～アフリカ・コンゴで学んだ大切なこと～」の講演、11月に松山常教氏(天理教校本科実践課程職員)を講師に、「心の向きが変わるとき、人の運命が変わる」の講演を聴きました。

学校行事では、9月に芸術鑑賞と天高祭(学園祭)、11月に校外学習を実施しました。また、12月には希望者を対象として4年ぶりに海外研修(タイ王国チェンマイ)を実施することができました。1月には天理スポーツ・文化コース〔3類〕1年生を対象に、3月には進学コース〔1類〕と特別進学コース〔2類〕の2年生を対象にスキー実習を実施しました。

教職員研修に関しては、信条教育として、6月28日に富松幹禎氏(天理教櫻井大教会前会長)を講師に、「生徒へのおたすけ(修理丹精)について」の講演、11月30日に吉田孝敏氏(天理教岡大教会会長)を講師に、「①教祖のひながたと親心について—親心によるおたすけ— ②朝夕のおつとめの意味 ③二つ一つについて」の講演を聴きました。生徒指導に関しては、9月27日に岡本雅至氏(奈良県教育委員会事務局 特別支援教育推進室 支援係 主査)を講師に、「特別支援教育の推進に向けて」の講演、人権教育に関しては、5月10日に早樫一男氏(天理ファミリーネットワーク代表)を講師に「生きづらさを抱える生徒のサポートを考える」の講演を聴きました。また、教科指導の充実を図るため、6月もしくは11月に7教科で研究授業を実施しました。

学校評価については、10月に生徒を対象とした学校評価アンケートを実施し、11月にはGoogleフォームを利用して保護者を対象とした学校評価アンケートを実施し、1月に全教職員に対して学校評価アンケートを実施しました。これらの学校評価アンケートの結果を基に、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校教育の理念に相応しい取り組みができるように、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しまし

た。

進学・学習指導については、2年生の9月の進路ガイダンスは模擬講義に加え、専門学校による体験学習を3年ぶりに実施することができました。進路講演会では定評のある講師を招き、生徒に良い刺激を与えることができました。夏期・冬期講習、合宿勉強会（4泊5日）については、計画通り実施することができました。

進学実績としては、特別進学コース〔2類〕は、3人に一人が国公立大学に合格、内訳は北海道大学、名古屋大学、神戸大学、広島大学、千葉大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、奈良女子大学、大阪公立大学、京都府立大学、兵庫県立大学等、国公立大学に計22名が合格し、過年度生で京都大学に1名合格しました。さらに、天理大学、中央大学、東京理科大、関西大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、龍谷大学等、多くの私立大学に延べ132名が合格しました。進学コース〔1類〕からは、信州大学、三重大学、奈良教育大学、高知大学、琉球大学、兵庫県立大学等、国公立大学に計12名が合格しました。進学コース〔1類〕の国公立大学の合格者は、4年連続で10名以上となりました。さらに、天理大学、関西大学、同志社大学、近畿大学、京都産業大学、龍谷大学等、多くの私立大学に延べ257名が合格しました。天理スポーツ・文化コース〔3類〕からは、天理大学、青山学院大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、近畿大学、龍谷大学、京都産業大学、摂南大学等の私立大学に45名が合格しました。全コース〔1類・2類・3類〕合わせて、国公立大学34名、天理大学166名、その他の私立大学268名、短期大学4名、天理教専修科5名、専門学校67名、延べ544名が合格しました。

クラブ活動における大会・コンクール等の主な結果は次のとおりでした。

ホッケー部は、「令和5年度全国高等学校総合体育大会（7月28日～8月2日）」で、男女とも第3位入賞を果たしました。



軟式野球部 国体優勝

水泳部の3年生男子は、「第46回全国JOCジュニアオリンピック夏季大会（8月22日～26日）」において、男子100m平泳ぎで優勝を果たしました。

軟式野球部は、「第68回全国高等学校軟式野球大会（8月24日～29日）」において準優勝し、「特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」（10月9日～11日）」において優勝を果たしました。

吹奏楽部は、「第25回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜（11月11日）」において、連盟会長賞、横浜市会議長賞を受賞しました。

弦楽部は、「第12回日本学校合奏コンクール2023 ソロ&アンサンブルコンテストのアンサンブル部門（高等学校の部）（11月19日）」において、金賞並びに全国第1位となる文部科学大臣賞を受賞しました。



弦楽部 文部科学大臣賞受賞

バトントワリング部は、「第51回バトントワリング全国大会（12月9日）」において、金賞を受賞しました。

令和5(2023)年度は新入生100名を迎えて、全校生徒363名でのスタートとなりました。

新型コロナウイルス感染症の陽性者が若干判明する中で、比較的落ち着いた雰囲気でのスタートでした。前年度は感染症対策を講じながらの東礼拝場での定刻参拝も、4月からは以前のように南礼拝場となりました。また5月8日からは、新型コロナウイルスが5類感染症になり、対応はそれまでと比べて雲泥万里となりました。

4月5日の始業式や6日の入学式は以前と同様の形で行いました。16日、農事部の生徒・教職員が天理教教会本部の「はえでのつとめ」に揃って参拝をし、農作物の豊作をお願いしました。18日の天理教教祖誕生祭には全校生徒揃って参拝をし、翌19日には1年生女子が婦人会総会に参加し26日の月次祭には4年生全員で昇殿参拝をしました。また4月は学級担任による生徒の個人面談を実施し、生徒の情報把握に努めました。

5月に入り中間考査を実施、21日には「2023奈良県障害者スポーツ大会陸上競技会」に40名弱の生徒が競技補助員のボランティアとして参加しました。31日には校外学習を行い、電車を利用して1年生は奈良公園・東大寺方面へ、2年生は飛鳥方面へ行きました。3年生は天理参考館の見学をしました。

6月23日には農事部で「田植え」を行いました。植えられた苗はしっかりと育ち、10月には真柱様を迎え「稲刈り」も行いました。

7月に入り、学期末考査、終業式を終えました。夏休みは「こどもおぢばがえり」に参加し、生徒・教職員ともにカレー食堂・天理駅待合所および神殿廻廊でのひのきしんをつとめました。

2学期に入り、多少の新型コロナ感染者が出て、落ち着かない状況ではありましたが、10月4日から中間考査、そして最大行事の一つである体育祭を21日に実施することができました。その後、インフルエンザが急激に感染拡大をし、11月1日・2日の2日間臨時休校しました。入場制限等感染対策を講じた上で19日に文化祭、25日にオープンスクールを実施しました。27日には総合体育館に生徒・教職員が一堂に会して「全校まなび」を実施しました。



全校まなび

12月5日から学期末考査、11日に金昌幸氏を講師に迎え、人権教育を実施し、20日に終業式を行いました。

1月は天理教教会本部の「お節会」に生徒・教職員ともに、帰参された信者への誘導や接待、生餅系のひのきしんに参加し、3学期がスタートしました。

2月1日～4日、見渡す限り一面銀世界の志賀高原・横手山での3年生のスキー実習は、大変貴重な経験となりました。23日には4年生86名が卒業式を迎え、学び舎から巣立っていきました。28日および29日には、令和6(2024)年度入学試験を無事に実施し、3月21日に終業式を終え、年度を締めくくることができました。

信条教育として、5月25日に福本大介氏(加古大教会・兵南分教会長)を講師に「黒歴史を経て」、9月26日

に大西武治氏（田原分教会、海外部勤務）を講師に「私たちから見える世界とは」、2月14日に清水巖一氏（高知大教会・高邁分教会用木）を講師に「諦めなければ失敗はない～夢への挑戦とお道の信仰について～」と題して講話を聴きました。4年生は、令和5（2023）年1月22日から9月30日までの間に、86名全員がおさづけの理を拝戴し、ようぼくとなりました。

本年度は許可制でスマートフォンの所持使用を認めて2年目となり、防犯教育の一環として5月25日「KDDIスマホ・ケータイ安全教室」を開催、2学期に入ってから、学年毎に「情報モラル教室」を実施しました。

毎年行っている「いじめアンケート」は、例年通りに6月と11月の2回実施し、加えて「こころと生活のアンケート」を3学期に実施し、暴力・いじめ等の根絶と未然防止・早期発見に、さらに精神面での健康状態の把握に努めました。

「校内生活体験発表大会」を6月23日に開催し、講堂に全校生徒が集い、久しぶりに以前のように盛大な大会を開催することができました。その結果、4年生女子と3年生女子の2名が10月の県大会へ出場し、優秀賞を受賞しました。

7月下旬から8月中旬にかけて、「令和5年度全国高等学校定時制通信制体育大会」が東京を中心として開催され、本年度は8競技124名の選手が出場しました。卓球部男子団体が27年ぶり2回目の優勝、バスケットボール部女子が3年連続20回目の優勝、バレーボール部女子が2年連続15回目の優勝と、栄冠を勝ち取りました。

また、文化系部活動では、バトントワリング部が「第45回バトントワリング関西大会」で銀賞を、吹奏楽部は「第65回奈良県吹奏楽コンクール（小編成の部）」で金賞を受賞しました。また、1月12日には奈良県高校定通制教育振興会から30名が特別表彰を受けました。



卓球部男子団体優勝

つとめ先、詰所、保護者との連携について、6月から10月にかけて担任が各つとめ先を訪問し、生徒の情報交換、相互理解となる機会を持ちました。加えて10月4日のつとめ先懇談会では39部署42名の方が来校しました。5月および10月には、全学年2日間の日程で保護者懇談会を開催しました。また、6月7日に詰所主任懇談会を実施しました。さらには、6月と11月にオープンスクールを行い、11月には受験生、在校生保護者や卒業生も含めて385名の参加者がありました。従来通り、授業・部活動見学、学校説明会、個別相談等を行い、充実した時間となりました。

前年度の入学生から、年次進行型で新学習指導要領が実施となりました。教員は教育課程研究集会や各教科の学習指導研究会等にそれぞれが参加し研鑽を積み重ねました。GIGAスクール構想や観点別評価等、個々に応じた新たな教育の展開の年となりました。校内設備においては電子黒板が各教室に配置され端末機の利用とともに、授業において更なるICT活用の年となりました。学力向上に向けて、より一層の環境整備や授業の工夫を図っていきます。

令和5（2023）年度は、新型コロナウイルスが5月から5類感染症になり、学校生活も少しずつ平常の形に戻ってきました。しかし、新型コロナウイルスに罹患する生徒やインフルエンザの流行もあり、引き続き生徒と教職員の感染防止と健康維持に努めました。

学校全体としては、「毎朝の学校参拝」、「ひのきしん活動」に、生徒・教職員ともに意欲的に取り組むことができました。また、「おさづけの取り次ぎ」や「お願いづとめ」も、意識が高まり積極的な実践が学校生活の多くの場面で見られました。月次祭の日の朝、3年ぶりに運動場で「全校てをどり」を実施しました。教祖140年祭に向けて、生徒総会で「ありがとう丸い心でたすけあい」というスローガンを決定しました。さらに生徒が学校生活や家庭生活で感じた喜びを「ありがとうカード」に記入して昼食時の生徒会アワーで発表する等、日々の心づくりを中心とした活動が始まりました。生徒・教職員が心を一つにして多くの人に喜んでもらえるような通り方をし、教職員は自らが「ようぼく」であるという自覚をしっかりと持ち、日々学校生活を過ごしていくことに努めました。



全校てをどり

学校行事は、新入生の当初教育と2年生の野外活動錬成会は宿泊を伴わず実施しました。3年生の修学旅行は以前の形に戻し、2泊3日で九州方面行きを実施しました。運動会は3学年で団を構成し、応援コンクールも復活し、生徒の自主性と創造力をしっかり発揮した運動会ができました。音楽会は保護者の入場制限をすることなく、天理市民会館で盛大に開催することができました。神殿の廻廊拭きを行う親子ひのきしん、授業参観や個人懇談等、保護者が来校して実施する行事も予定通りに実施することができました。

学習面においては、全学年が朝の会の時間を使って読書に取り組むことで、1時間目から落ち着いて授業に臨むことができました。生徒一人ひとりの学習への意識を高め、学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導の徹底を継続的に取り組みました。定着してきたICT教育は生徒もタブレットの使い方に慣れ、多くの授業で写真や動画を使った新しい形での学びを実施しています。教職員もさらに研修を行い、主体的・対話的な深い学びを進めていきます。

進路指導についてはキャリア教育の一環として、1年生では厚生労働省の職業情報提供サイトを活用しての「職業調べ」を行い、2年生では3年目となる「ライフプランニング授業」を継続実施し、3年生では講師を招いて「人生の先輩からの講演」として将来の夢や生き方等について学ぶ機会を設けました。キャリア教育は生徒の学習意欲や進路意識の向上、職業意識について考える機会を増やし、3年生で行う進路指導へつなげていくものであり、本校においても進路指導の重要な柱の一つとして今後も継続していきます。高校入試では多くの生徒が希望する進路を実現できていますが、天理高等学校との連携を一層推し進め、個々の徳分を生かせるよう進路指

導を充実させていきます。

学校生活の上では前年度同様に、「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に加え、取り組みました。ホームページで本校のいじめ防止に対する基本姿勢や対策について公表しており、例年のようにいじめに関するアンケートを実施し、見えてきた問題点については、各クラスや学年、生徒指導部会で細かなところも見逃さない対応ができるように心がけるとともに、問題が起こった際は、学校全体が組織として動くよう心がけ、取り組みました。今後も、教員がいじめに対して「絶対に許さない」という意識をしっかりと持って指導にあたります。「礼儀正しい規律のある学校」として重視している「挨拶」はこれまでの取り組みの成果もあり、しっかりとできています。「挨拶ができる天中生」が定着してきており、特に修学旅行等校外へ出た時や来校者への挨拶は良い「にをいがけ」となっており、次年度以降も継続できるようにします。

不登校傾向の生徒やオアシスルームを利用する生徒等、生徒の心の問題について本年度も教育相談委員を中心に、各担任や学年担当、養護教諭やスクールカウンセラー、天理大学生のオアシスフレンドと連携を密にしながらか状況把握に努め、カウンセリングにつなげるサポートを行いました。担任や副担任の家庭訪問も必要に応じてくり返し実施しました。前年度から始めたスクールカウンセラーによる「こころの授業」はコミュニケーションの大切さを伝え、多くの悩みを持つ思春期の生徒にとって、個々の抱える問題の解決へのアプローチとして重要なものであり、今後も継続していきたいと考えています。

特別支援教育について、本年度はケース会議を開くことはありませんでしたが、対象生徒についての対応は引き続き関係教職員が相談等を継続して共通理解が必要な場合は職員会議等で報告・連絡を行っていきます。

地域との連携については前年度に引き続き生徒会役員を中心として杣之内町との関わりを積極的に進め、区長・役員の方との話し合いや地域のイベントへの参加等を実施しました。特に本年度は吹奏楽部・弦楽部・箏曲部が中心となって丹波市校区のふれあいコンサートに参加し、コンピュータ部がそのコンサートのポスターを制作する等地域と関わる回数や参加する生徒の数が増えました。生徒会が中心となって実施した災害支援の募金活動では、地域連携したことにより並河健天理市長とも数回会う機会を得たことは、生徒たちにとって良い刺激であり貴重な経験となりました。さらに次年度以降も生徒会役員や部活動を中心として地域との連携を進めていきます。

生徒の生活の安全のために、前年度から天理警察署の協力を得て「薬物乱用防止教室」を実施し、本年度は、「交通安全教室」も実施しました。また大阪ガスの協力で「防災教室」を新たに実施しました。どちらも命を守るという目的であり、今後も本校として継続していきます。

部活動では、ラグビー部、柔道部、水泳部、弦楽部、箏曲部が全国大会への出場を果たしました。その



交通安全教室

中で箏曲部は「第41回全国小・中学生箏曲コンクール」において銅賞（3位）を受賞しました。

天理小学校

令和5（2023）年度が新入児童40名を迎えて、始まりました。

新型コロナウイルスが5月から5類感染症になり、前年度まで感染対策を工夫して実施していた行事を以前に戻すのか、それとも違う形で実施するのか、一つひとつ教職員で相談し、行事を企画・運営しました。

6年生の修学旅行は、感染対策なしで名古屋・伊勢方面への実施となりました。



コンゴ・ブラザビル教会長夫妻との交流会

9月には、コンゴ・ブラザビル教会長ギー・マテラマ氏ご夫妻との交流会を開催しました。交流会に先立ち、児童会が全校児童に「家に眠っている新品の文房具があれば、持ってきてください」と呼びかけました。呼びかけに応じてたくさん文房具が集まり、当日ご夫妻にお渡しすることができました。後日、教会が運営する小学校に通う子どもたちから、感謝の動画が届きました。

10月の運動会は、種目を大きく減らすことなく、工夫をして午前中で完結する形にしました。前年度より保護者

席の一角を出場児童の保護者席としました。入れ替わりをしながら児童の様子を間近で保護者に見てもらい喜んでいただくことができました。

その他、校外学習や5年生の野外活動、夏休みの水泳等、ほぼ以前の形に戻りました。

これまで学校行事について、深く議論をせず例年通り実施していましたが、コロナ禍を経て、行事の意義を立ち止まって考えることができました。

天理教管財部の協力を得て実施してきた農業体験、また天理高等学校第二部農事部の世話取りでのサツマイモと玉ねぎの植付けおよび収穫等も、従来通りに実施することができました。自然と関わる体験学習は、親神様のお働きを肌身で感じることでできる尊い体験授業であることを、再認識しました。

特別クラブは、水泳クラブと音楽クラブが復活しました。コロナ以前は、児童が複数の特別クラブに重複して入部することができませんでしたが、練習期間を分けることにより、夏は水泳、他の季節は音楽クラブと、両方のクラブに励む児童の姿が見られました。小学生の段階で様々なスポーツや文化芸術活動に幅広く親しむ意義は大きく、今後も練習期間を分け、練習できる環境を維持していきます。

水泳クラブは練習最終日に校内の記録会を開き、保護者に練習の成果を見ていただきました。多くの児童が休むことなく練習に参加したため、自分自身の泳力の伸びに大きな自信を持ちました。

音楽クラブは、「おうた演奏会」等、天理教内行事に参加したり、3学期は「こどもコンサート」に出演し、多くの方々に演奏を見ていただきました。

また、「令和5年度こども音楽コンクール」に音楽クラブの4名が弦楽四重奏で出場し、小学校・重奏部門で文部科学大臣賞を受賞し、3月2日、東京オペラシティコンサートホールにて表彰されました。



音楽クラブ 文部科学大臣賞受賞

天理幼稚園



プール遊び

未来のよふぼくを育てるといふ本園創立の精神を自覚し、教祖140年祭三年千日の旬に、信仰の喜びを伝えていけるよう、日常生活の中で、親神様の働きや恵みを実感できる話を園児にしました。

園児の怪我や発熱時には、園長をはじめ教職員がおさづけの取り次ぎをし、近くに居合わせた園児は添い願いをすることができました。また、友達とのつながりが深まるにつれ、欠席する友達のことを気にかけて、神様にお願ひする姿が多く見られました。

教職員が天理教布教部の「みおしえ学習会（十全の守護）」のプログラムに参加し、園児に教理を伝えられるよう学びを深めました。

からだづくりの重要性を確認し合い、楽しみながら運動遊びを積み重ねる工夫に努めています。天候の良い日には戸外で思いきり体を動かし、遊ぶ姿があり、様々な活動に挑戦する中で自信をつける様子が見られ、運動遊びに苦手意識のある園児も活動によって少しずつ参加してみようという変化がありました。また、順番を守ることや共有して道具を使うこともできるようになり、ルールのある遊びでは、気持ちの折り合いをつける場面に遭い、悔しさや悲しさ等を感じる体験もできました。年間を通じてからだづくりを心掛けることにより、学年毎の集中力が高まり、落ち着いて座ることができるようになってきました。

また、異年齢児との関わりの機会を計画的に行い、互いを思いやる交流を深めることができました。年長児は年長者としての自覚を持ち、年下の園児への気配りの姿が育ってきました。特に、預かり保育では、年少児に遊

びのルールを知らせ、年少児に配慮した特別ルールを考え、鬼ごっこで一緒に逃げる姿がありました。さらに、午睡の必要な年少児が使った布団を畳んで片付ける等の世話を、年長児が主体的に行うようになり、異年齢で過ごすことによる育ちがありました。

教育内容の充実を図るべく園内研修を重ねて実施しました。公開保育を行い、文部科学省から出される幼児教育理解発展推進事業の協議主題に基づき、教員間で協議を深めました。また、個々の対応に悩むケースの解決策として、天理大学人間学部教授を講師に招き、解決志向カンファレンス研修を受け、保育に活かすことができました。またリトミック研究センター講師を招き、リトミック遊びの実技研修を行いました。本年度は講師から直接受講できる研修会が増え、教員の資質向上に努めるため、積極的に研修会に参加しました。

また、施設訪問研修で、法人内の教職員に幼稚園の様子や園児の姿を見てもらい、今後も幼稚園教育の大切さを伝えていくことができるよう、伝える力や説明する力をさらに付けていきます。

特別な支援を要する園児に対しては、気になる園児の姿や個別の支援について報告し、教職員間で共通理解し、対応できるように努めました。教育心理相談室心理士による巡回相談での助言を参考にし、各療育施設に同行し、県リハビリテーションセンター等の医療機関と交流を図り、情報交換に努め、支援に活かしました。また、学校医と連携をとり、療育を必要とする園児の診察につなげられたケースが増えました。

保護者との連携については、園児の姿から必要に応じて懇談の日を設けたり、教員側から声をかけたりして、子育てについてともに考えあう機会をもちました。また、育友会活動や園行事について、本年度の行事や活動の進め方等について育友会と相談しました。

保護者支援の一端として幼児教育・保育無償化制度新2号認定者を対象に、夏休み中の預かり保育を、本年度初めて期間限定で実施しました。実施期間や預かり時間、暑さ対策や担当者の数等について改善の必要がありました。



こどもおちばがえりに参加

保護者アンケートを含んだ学校評価を実施し、寄せられた意見や要望については見直しや改善に努め、次年度に活かします。また、1月に臨時の保護者会を開催し、園舎移転についての説明をしました。

近年の夏の異常気象を受け、毎日暑さ指数を測り、気温の高い日には戸外遊びの可否をホワイトボードに表示して、子どもたちにわかりやすく知らせました。また、定期的に水分補給するよう声をかけ、運動遊びの間に休憩時間を設けた熱中症対策を講じました。保健衛生面では、感染対策を実施しながら幼稚園での歯磨き指導やうがいの再開等、少しずつ従来の生活に戻しました。健康管理室の看護師の協力を得て、年長児向けに歯磨き教室を実施しました。インフルエンザやアデノウイルス感染症等の罹患者が増えたことを踏まえ、保健だよりを発行し、保護者へ病気の特徴や出席停止期間の目安を知らせました。

安全教育として、前年度末に設置したバス置き去り防止装置についての説明会を教職員に行い、園児には、置き去り事案を想定した訓練を行いました。今後、乗車人数確認や乗車降車の際の安全点検も怠らずに続けていきます。

環境面については、日常的に安全点検をするとともに毎学期ごとに安全チェックリストに沿って点検を行っています。園舎の老朽化に伴い本年度は、年少園舎前の通路の床板修理、ゆり組・すみれ組テラスの床板修理、まつ組テラス側の鍵の取り換え、火災報知機から受信機までの電線工事、上水道管の修理、砂場横ミニハウスの補修を行いました。

Ⅲ 財務の概要

1. 学校法人会計について

学校法人が作成しなければならない計算書類は、文部科学大臣が定める基準「学校法人会計基準により、資金収支計算書及びこれに附属する内訳表（資金収支内訳表、人件費内訳表、活動区分資金収支計算書）並びに事業活動収支計算書及びこれに附属する内訳表（事業活動収支内訳表）並びに貸借対照表及びこれに附属する明細表（固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表）となっています。

学校法人が作成する主要な計算書類と主な役割は次のとおりです。参考として企業会計における類似の財務諸表と役割を併記します。

学校法人会計	企業会計
資金収支計算書 会計年度のすべての資金の収入及び支出の内容と支払資金のてん末を明らかにする。	キャッシュ・フロー計算書 会計期間の資金の収入と支出（源泉と用途）を表し、企業の資金状況を明らかにする。
事業活動収支計算書 会計年度の収支バランスを表し、持続性を維持するための経営状況を明らかにする。	損益計算書 会計期間の損益の状態を表し、損益とその採算性（経営成績）を明らかにする。
貸借対照表 一定時点における資産、負債、基本金等の内容と金額を表し、財政状況を明らかにする。	貸借対照表 一定時点における資産、負債、資本金等の内容と金額を表し、財政状況を明らかにする。

2. 令和5年度決算の概要

令和5年度決算は、令和6年5月30日の理事会で承認されました。

令和5年度決算について、資金収支計算書、事業活動収支計算書、活動区分資金収支計算書及び貸借対照表によりその概要を報告します。

資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には翌年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,294,971	4,268,106	26,865
手数料収入	38,013	38,318	△305
寄付金収入	1,368,650	1,381,332	△12,682
補助金収入	1,687,590	1,651,942	35,648
資産売却収入	501,700	501,982	△282
付随事業・収益事業収入	130,227	97,616	32,611
受取利息・配当金収入	27,238	29,356	△2,118
雑収入	191,211	197,572	△6,361
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	471,450	442,943	28,507
その他の収入	787,500	832,886	△45,386
資金収入調整勘定	△611,750	△609,947	△1,803
前年度繰越支払資金	5,374,050	5,374,050	
収入の部合計	14,260,850	14,206,156	54,694

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	5,602,656	5,609,688	△7,032
教育研究経費支出	1,951,094	1,884,463	66,631
管理経費支出	271,577	277,752	△6,175
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	30,200	30,303	△103
設備関係支出	90,873	119,990	△29,117
資産運用支出	533,200	561,614	△28,414
その他の支出	921,900	936,287	△14,387
資金支出調整勘定	△719,000	△675,983	△43,017
翌年度繰越支払資金	5,578,350	5,462,042	116,308
支出の部合計	14,260,850	14,206,156	54,694

用語（科目）の説明

資金収入の部

- ① 学生生徒等納付金収入.....授業料、入学金、実験実習料、教育設備充実費、施設等利用料給付費等
- ② 手数料収入.....入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金収入.....宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等
- ④ 補助金収入.....私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産売却収入.....固定資産の売却収入、有価証券の売却収入
- ⑥ 付随事業・収益事業収入.....学寮会計収入、預り保育料、図書館・参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑦ 受取利息・配当金収入.....預金、有価証券等の利息、配当金等
- ⑧ 雑収入.....施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入

- ⑨ 借入金等収入 日本私立学校共済・振興事業団、金融機関等よりの借り入れ収入
- ⑩ 前受金収入 翌年度入学の学生、生徒等に係る学生生徒等納付金収入
- ⑪ その他の収入 引当特定資産の取崩収入、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入、
預り金収支を純額で表示し、預り金支払額を超える預り金受入収入
その他仮払金等収支を純額で表示し、支払額を超えた場合の回収収入
- ⑫ 資金収入調整勘定 当該会計年度期末における未収入金、前会計年度の前受金

資金支出の部

- ① 人件費支出 教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費、役員報酬、退職金
- ② 教育研究経費支出 教育研究のために要する経費
- ③ 管理経費支出 教育研究経費以外の経費
- ④ 借入金等利息支出 借入金に係る利息支出
- ⑤ 借入金等返済支出 借入金の返済支出
- ⑥ 施設関係支出 土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出（資産運用目的のための取得を除く）
- ⑦ 設備関係支出 耐用年数が1年以上の10万円以上の備品、長期間にわたって使用保存する書籍等、車両の取得のための支出
- ⑧ 資産運用支出 有価証券購入のための支出、引当特定資産への繰入支出
- ⑨ その他の支出 前会計年度末における未払金の当該会計年度における支出
預り金収支を純額で表示し、預り金受入額を超える預り金支出
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の回収額を超える仮払金支出
- ⑩ 資金支出調整勘定 当該会計年度期末における未払金、前会計年度末における前払金

収入の部では、学生生徒等納付金収入は予算額を2687万円下回り42億6811万円となりました。手数料収入は予算に対して31万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より12億円、天理よろづ相談所学園の残余財産として1億2382万円、その他の寄付金は大学キャンパス整備寄付金等の用途を指定した特別寄付金と一般寄付金を合わせて5751万円ありました。

5751万円の内訳は以下の通りです。

内容	金額
キャンパスサポート天理・受配者指定寄付金	400万円
アートマン岡本奨学金資金	1500万円
親里ラグビー場運営資金	180万円
大学キャンパス整備資金	469万円
大学硬式野球部サポート資金	204万円
天理ギャラリー展開催支援資金	1300万円
高校一部親里野球場維持整備資金	526万円
その他の寄付金	1,172万円

補助金収入は、国庫補助金収入が見込みを下回り9億7236万円となりました。国庫補助金収入のうち、私立大学等経常費補助金は予算に対して3127万円下回り4億9293万円となっています。「高等教育の修学支援制度」により授業料等減免交付金が4億7902万円交付されました。

地方公共団体補助金収入のうち、私立学校教育経常費補助金は、見込みを下回り6億5219万円となり、地方公共団体補助金収入は、予算額より686万円減額の6億8455万円となっています。補助金収入合計は16億5194万円となりました。付随事業・収益事業収入は予算を3261万円下回り9762万円となりました。受取利息・配当金収入は見込みを上回り2936万円となっています。雑収入は、施設設備利用料収入が予算とほぼ同額の3008万円、私立大学退職金財団等交付金収入は退職者の増加により増額し1億3206万円、また、その他の雑収入が419

万円見込みを上回ったことなどにより、予算に対して 631 万円の増加となりました。前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 142 億 616 万円となりました。

支出の部では、人件費支出は予算を 703 万円下回り 56 億 969 万円となりました。医療学部の増設により前年度より教員人件費は 4 億 6792 万円、職員人件費は 7570 万円増額しました。退職金は 2 億 9890 万円減額しましたので人件費合計では、前年度より 2 億 4067 万円増額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施設	内容
天理大学	別所キャンパス校舎入退出管理システム設置／11号棟保健室、学生相談室等改修工事／7号棟研究室改修工事／体育学部グラウンド日除け設置／二号棟LED照明更新工事／二号棟カーペット張替及び椅子入替／八号棟空調更新工事／武道館剣道場床改修工事／三・四号棟耐震二次診断業務／ホームページリニューアル
天理図書館	資料修繕『古琉球文書』234点／東西閲覧室、西1階LED照明更新工事／分電盤更新工事
天理参考館	非常誘導灯更新工事
天理高等学校	本校舎、図書館棟、南グラウンド東トイレ改修工事／第三別館外壁塗装及びバルコニー防水改修工事／家庭科棟空調更新工事／西グラウンド、総合体育館、テニスコート、親里球場、さおとめ寮2階LED照明更新工事／硬式野球部トレーニングルーム改修工事
天理中学校	校内放送設備入替／教室パーティション設置工事／図書室床張替工事
天理小学校	校舎耐震補強工事実施設計業務／天理小学校及び天理大学耐震補強工事CM業務／仮移転に伴う食器洗浄機設置／仮移転に伴うネットワーク等移設工事／仮移転に伴う引越費用

資金支出は合計で 142 億 616 万円となり、そのうち翌年度繰越支払資金は 54 億 6204 万円となりました。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支を「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの収入、支出及び収支差額を表示することで資金の流れを明らかにするものです。「教育活動による資金収支」では、学校法人の本業である教育活動によりどれだけの資金が獲得できたのかがわかります。「施設整備等活動による資金収支」では、当年度に施設関係、設備関係の取得がどのくらいあったのか、財源が何であったのかがわかります。「教育活動」と教育活動をインフラ面から支える「施設整備等活動」の資金収支差額の合計は学校法人の活動における中心的な収支内容を明らかにします。また、「その他の活動による資金収支」では、借入金状況、資金運用状況等、主に財務活動について把握することができます。

(単位：千円)

教育活動による資金収支			
収入		支出	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,268,106	人件費支出	5,609,688
手数料収入	38,318	教育研究経費支出	1,884,463
特別寄付金収入	1,251,117	管理経費支出	277,182
一般寄付金収入	125,526		
経常費等補助金収入	1,651,942		
付随事業収入	97,616		
雑収入	196,688		
教育活動資金収入計(A)	7,629,313	教育活動資金支出計(B)	7,771,333
		差引(A-B=C)	△142,020
		調整勘定等(D)	△93,493
		教育活動資金収支差額(C+D=①)	△235,513

施設設備等活動による資金収支			
収入		支出	
科目	金額	科目	金額
施設設備寄付金収入	4,689	施設関係支出	30,303
施設設備売却収入	1,982	設備関係支出	119,990
施設整備等活動資金収入計(a)	6,671	校舎等建設引当特定資産繰入支出	33,889
		施設整備等活動資金支出計(b)	184,182
		差引(a-b=c)	△177,511
		調整勘定等(d)	167,300
		施設整備等活動資金収支差額(c+d=②)	△10,211

小計 (教育活動資金収支差額 + 施設設備等活動資金収支差額) (①+②=③)	△245,724
---	----------

その他の活動による資金収支			
収入		支出	
科目	金額	科目	金額
有価証券売却収入	500,000	有価証券購入支出	200,000
退職給与引当特定資産取崩収入	300,000	第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,281
預り金受入収入	4,465	退職給与引当特定資産繰入支出	326,444
修学旅行費等預り金受入収入	14,483	修学旅行費等預り預金への繰入支出	14,483
仮受金受入収入	25,000	小計	542,208
立替金回収収入	2,154	過年度修正支出	570
仮払金回収収入	151	その他の活動資金支出計(イ)	542,777
小計	846,253	差引(ア-イ=ウ)	333,716
受取利息・配当金収入	29,356	調整勘定等(エ)	0
過年度修正収入	884	その他の活動資金収支差額(ウ+エ=④)	333,716
その他の活動資金収入計(ア)	876,493		

支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)(③+④)	87,992
前年度繰越支払資金	0
翌年度繰越支払資金	87,992

令和5年度決算では、教育活動資金収支差額は2億3551万円の支出超過、施設設備等活動資金収支差額は1021万円の支出超過になり、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額の合計は2億4572万円の支出超過になりました。また、その他の活動資金収支差額は3億3372万円の収入超過になっています。これらにより、翌年度繰越支払資金は8799万円増額し、54億6204万円となりました。

事業活動収支計算

事業活動収支計算は、当該会計年度の「事業活動収入」と資産の消費や用役の対価である「事業活動支出」及び「基本金組入額」(教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額=資産)により計算されます。資金収入には含まれない現物寄付を事業活動収入に加え、固定資産の利用を耐用年数期間での消費と認識した減価償却額は事業活動支出に該当します。また、教職員の将来の退職時に支給される退職金は用役の対価と認識され、退職給与引当金繰入額も事業活動支出に含まれます。さらに、事業活動収入及び事業活動支出は経常的活動と臨時的活動(特別活動)に区分し、経常的活動を教育研究に係る活動と教育活動外(財務活動・収益事業活動)に区分して、その収支状況を明らかにします。これにより学校法人の本務たる教育活動における収支バランスや経常的な収支バランスを把握することができます。これら3区分の収支差額を合計し、基本金組入前当年度収支差額を計算します。ここから基本金組入額を控除した当年度収支差額により事業活動収支の均衡の状態が明らかにされ、学校法人の経営の状況を示すこととなります。

事業活動収支は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。(損益計算書では計上されない資本的支出が、事業活動収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。)学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。事業活動収支計算が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

(単位：千円)

科目	予算	決算	差異
教育活動収支			
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	4,294,971	4,268,106	26,865
手数料	38,013	38,318	△305
寄付金	1,365,250	1,380,864	△15,614
経常費等補助金	1,687,590	1,651,942	35,648
付随事業収入	130,227	97,616	32,611
雑収入	190,411	196,841	△6,430
教育活動収入計	7,706,462	7,633,687	72,775
事業活動支出の部			
人件費	5,603,256	5,636,132	△32,876
教育研究経費	2,674,157	2,617,330	56,827
管理経費	301,662	307,716	△6,054
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	8,579,075	8,561,178	17,897
教育活動収支差額	△872,613	△927,491	54,878
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	27,238	29,356	△2,118
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	27,238	29,356	△2,118
事業活動支出の部			
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	27,238	29,356	△2,118
経常収支差額	△845,375	△898,135	52,760
特別収支			
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	1,982	△1,982
その他の特別収入	2,476,240	2,474,971	1,269
特別収入計	2,476,240	2,476,953	△713
事業活動支出の部			
資産処分差額	4,730	4,614	116
その他の特別支出	600	570	30
特別支出計	5,330	5,184	146
特別収支差額	2,470,910	2,471,769	△859
基本金組入前当年度収支差額	1,625,535	1,573,634	51,901
基本金組入額合計	△2,587,380	△2,471,661	△115,719
当年度収支差額	△961,845	△898,027	△63,818
前年度繰越収支差額	△14,001,558	△14,001,549	△9
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△14,963,403	△14,899,576	△63,827
(参考)			
事業活動収入計	10,209,940	10,139,996	69,944
事業活動支出計	8,584,405	8,566,362	18,043

教育活動収支

- ① 学生生徒等納付金.....授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等、施設等利用給付費等
- ② 手数料.....入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金.....宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金及び現物寄付受領額
(施設設備寄付金を除く)
- ④ 経常費等補助金.....私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等（施設整備補助金を除く）
- ⑤ 付随事業収入.....学寮会計収入、預り保育料、図書館・参考館の事業収入。受託事業収入
- ⑥ 雑収入.....施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、徴収不能引当金の戻り入れ、
その他の雑収入
- ⑦ 人件費.....教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑧ 教育研究経費.....教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑨ 管理経費.....教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑩ 徴収不能額等.....回収不能が確実となった未収入金等の金銭債権額

教育活動外収支

- ① 受取利息・配当金.....預金、有価証券等の利息、配当金等
- ② その他の教育活動外収入.....受取利息・配当金以外の教育活動外収入
- ③ 借入金等利息.....借入金に係る利息支出
- ④ その他の教育活動外支出.....借入金等利息以外の教育活動外支出

特別収支

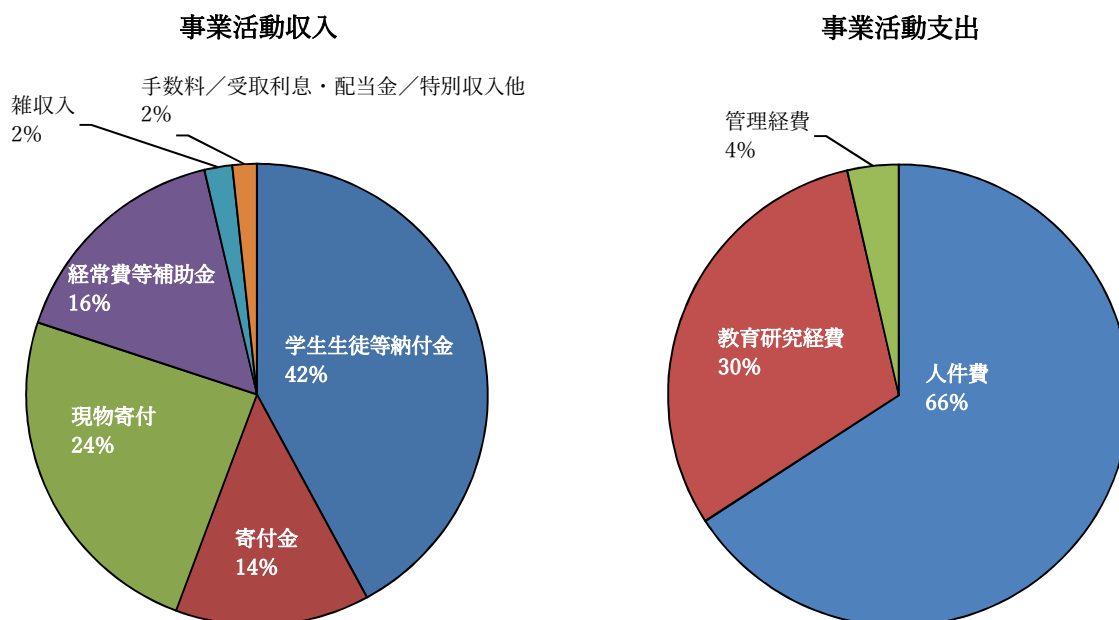
- ① 資産売却差額.....資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ② その他の特別収入.....施設設備拡充のための寄付金、施設設備の現物寄付受領額、施設設備拡充のための補助金
過年度修正による当年度収入
- ③ 資産処分差額.....固定資産を廃棄した場合の除却損
- ④ その他の特別支出.....過年度修正による当年度支出、災害損失
- ⑤ 基本金組入額合計.....学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を保持するために維持すべきものとして、
当該年度に組み入れた基本金額（固定資産、奨学基金等）

教育活動収支では、教育活動収入計が予算比0.9%減の76億3368万円（前年度5.5%〈3億9893万円〉の増）となり、教育活動支出計が予算額とほぼ同額の85億6118万円（前年度5.1%〈4億1880万円〉の増）となりました。人件費には退職給与引当金繰入額3億7817万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は2644万円となっています。教育研究経費に6億4107万円、管理経費に1895万円の減価償却費を含んでいます。教育活動収支差額は予算比6.3%増の9億2749万円の支出超過となっています。

教育活動外収支では、教育活動外収入計が予算比7.8%増の2936万円（前年度21.9%〈528万円〉の増）となりました。借入金等利息はないので教育活動外支出はありません。教育活動外収支差額は予算に対して212万円の増額となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は8億9814万円の支出超過となりました。

特別収支では、特別収入計が予算額とほぼ同額の24億7695万円（前年度1247.2%〈22億9310万円〉の増）となり、特別支出計が予算比2.7%減の518万円（前年度66.6%〈1034万円〉の減）となりました。その他の特別収入に現物寄付として大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入、天理よろづ相談所学園、天理教校学園からの土地、建物、備品等、計24億6844万円を計上しています。特別収支差額は予算額とほぼ同額の24億7177万円の収入超過となりました。

当該会計年度の事業活動収入計と事業活動支出計の差額（基本金組入前当年度収支差額）は15億7363万円の収入超過となり、基本金組入額合計24億7166万円（予算比4.5%減）を控除した当年度収支差額は8億9803万円の支出超過額（前年度は10億7988万円の支出超過額）となりました。前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は148億9958万円となりました。



貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金及び繰越収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債の部、純資産の部はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、繰越収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計でいう資本の概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている資産）と繰越収支差額（事業活動収支計算において事業活動収入から基本金組入額を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準としています（取得原価基準）。また、時の経過によりその価値を減少させる固定資産（建物、機器備品等）の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	28,210,468	26,593,804	1,616,664
有形固定資産	25,673,630	23,818,580	1,855,050
特定資産	1,716,496	1,654,882	61,614
その他の固定資産	820,342	1,120,342	△300,000
流動資産	6,022,629	6,269,534	△246,905
資産の部合計	34,233,097	32,863,338	1,369,759

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,299,862	3,273,417	26,445
流動負債	1,726,164	1,956,484	△230,320
負債の部合計	5,026,026	5,229,901	△203,875

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	44,106,647	41,634,986	2,471,661
第1号基本金	43,290,034	40,819,653	2,470,381
第3号基本金	251,613	250,333	1,280
第4号基本金	565,000	565,000	0
繰越収支差額	△14,899,576	△14,001,549	△898,027
純資産の部合計	29,207,071	27,633,437	1,573,634
負債及び純資産の部合計	34,233,097	32,863,338	1,369,759

用語（科目）の説明

- ① 固定資産有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両、建設仮勘定
 特定資産：第3号基本金引当特定資産、退職給与引当特定資産、退職資金特定資産、
 校舎等建設引当特定資産
 その他の固定資産：電話加入権、有価証券、敷金・保証金
- ② 流動資産現金預金、修学旅行等預り預金、未収入金、立替金、前払金、仮払金、貯蔵品
- ③ 固定負債長期借入金、長期未払金、退職給与引当金
- ④ 流動負債短期借入金、未払金、前受金、預り金、修学旅行費等預り金
- ⑤ 基本金第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を
 自己資金で取得した総額
 第2号基本金：固定資産を取得するために留保した預金などの資産の額
 第3号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当
 天理大学ふるさと会奨学基金、果実を学生の奨学金に使用
 第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な運転資金の額
- ⑥ 繰越収支差額当年度以前の各年度の事業活動収入から基本金組入額合計を控除し、事業活動支出を差し引
 いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から18億5505万円増額しています。特定資産は、第3号基本金引当特定資産、退職給与引当資産及び校舎等建設引当資産の繰り入れにより6161万円増額しています。その他の固定資産は有価証券の売却により3億円の減少となります。流動資産は未収入金等が減額したことにより差引2億4691万円の減額となりました。資産の部合計では差引13億6976万円増の342億3309万円となりました。

負債の部では、未払金、前受金が減額し、退職給与引当金、預り金、修学旅行費等預り金、仮受金が増額しましたので2億388万円減の50億2603万円となっています。純資産の部では、基本金が24億7166万円の基本金組み入れを行い総額441億665万円となりました。繰越収支差額は事業活動収支計算の翌年度繰越収支差額と同額の148億9958万円の支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部（正味財産）は292億707万円となりました。

3. 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
収入の部					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	3,742,166	3,760,111	3,644,786	3,656,847	4,268,106
手数料収入	65,983	50,381	51,349	46,669	38,318
寄付金収入	2,372,201	2,116,148	1,751,075	1,539,967	1,381,332
補助金収入	1,474,305	1,709,984	1,693,489	1,704,885	1,651,942
資産売却収入	100	400,002	300,000	1,400,152	501,982
付随事業・収益事業収入	20,705	15,019	12,456	38,034	97,616
受取利息・配当金収入	25,413	23,399	25,344	24,075	29,356
雑収入	256,319	469,383	299,0780	393,784	197,572
借入金等収入	500,000	0	0	0	0
前受金収入	478,050	394,582	416,906	471,388	442,943
その他の収入	1,143,232	673,565	674,054	568,119	832,886
資金収入調整勘定	△931,776	△941,522	△653,061	△903,538	△609,947
前年度繰越支払資金	5,485,790	6,524,753	5,770,088	5,130,318	5,374,050
収入の部合計	14,632,488	15,195,805	13,986,266	14,070,700	14,206,156

支出の部					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	5,329,856	5,857,131	5,277,377	5,369,021	5,609,688
教育研究経費支出	1,387,822	1,780,024	1,639,553	1,697,623	1,884,463
管理経費支出	302,924	284,239	282,226	281,228	277,752
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	410,776	181,619	238,471	325,833	30,303
設備関係支出	208,270	187,065	122,458	109,680	119,990
資産運用支出	250,915	1,614,973	679,146	981,840	561,614
その他の支出	1,024,838	859,251	1,403,315	853,229	936,287
資金支出調整勘定	△807,666	△1,338,585	△786,598	△921,804	△675,983
翌年度繰越支払資金	6,524,753	5,770,088	5,130,318	5,374,050	5,462,042
支出の部合計	14,632,488	15,195,805	13,986,266	14,070,700	14,206,156

(単位：千円)

事業活動収支計算書					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	3,742,166	3,760,111	3,644,786	3,656,847	4,268,106
手数料	65,983	50,381	51,349	46,669	38,318
寄付金	2,254,034	2,059,551	1,739,666	1,544,818	1,380,864
経常費等補助金	1,217,977	1,666,926	1,650,586	1,554,900	1,651,942
付随事業収入	20,705	15,019	12,456	38,034	97,616
雑収入	254,611	467,108	299,408	393,493	196,841
教育活動収入計	7,555,476	8,019,096	7,398,250	7,234,761	7,633,687
事業活動支出の部					
人件費	5,343,306	5,938,702	5,321,730	5,415,123	5,636,132
教育研究経費	2,101,047	2,479,287	2,348,139	2,413,551	2,617,330
管理経費	343,833	322,911	315,393	313,701	307,716
徴収不能額等	92	63	30	△1	0
教育活動支出計	7,788,278	8,740,963	7,985,292	8,142,374	8,561,178
教育活動収支差額	△232,802	△721,867	△587,042	△907,613	△927,491
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	25,413	23,399	25,344	24,075	29,356
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	25,413	23,399	25,344	24,075	29,356
事業活動支出の部					
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	25,413	23,399	25,344	24,075	29,356
経常収支差額	△207,389	△698,468	△561,698	△883,538	△898,135
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	100	0	0	150	1,982
その他の特別収入	393,664	276,426	76,129	183,700	2,474,971
特別収入計	393,764	276,426	76,129	183,850	2,476,953
事業活動支出の部					
資産処分差額	93,063	8,633	5,271	15,328	4,614
その他の特別支出	761	1,403	12	192	570
特別支出計	93,824	10,036	5,283	15,520	5,184
特別収支差額	299,940	266,390	70,846	168,330	2,471,769
基本金組入前当年度収支差額	92,551	△432,078	△490,852	△715,208	1,573,634
基本金組入額合計	△148,280	△327,799	△32,376	△364,672	△2,471,661
当年度収支差額	△55,729	△759,877	△523,228	△1,079,880	△898,027
前年度繰越収支差額	△11,582,837	△11,638,566	△12,398,443	△11,921,670	△14,001,549
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△11,638,566	△12,398,443	△12,921,671	△14,001,550	△14,889,576
(参考)					
事業活動収入計	7,974,653	8,318,921	7,499,723	7,442,686	10,139,996
事業活動支出計	7,882,102	8,750,999	7,990,575	8,157,894	8,566,362

(単位：千円)

貸借対照表					
資産の部					
科目	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
固定資産	26,726,759	27,551,913	27,421,701	26,593,804	28,210,468
有形固定資産	24,679,082	24,473,872	24,108,867	23,818,580	25,673,630
特定資産	1,524,297	1,557,697	1,592,490	1,654,882	1,716,496
その他の固定資産	523,380	1,520,344	1,720,344	1,120,342	820,342
流動資産	7,193,171	6,513,952	5,732,465	6,269,534	6,022,629
資産の部合計	33,919,930	34,065,865	33,154,166	32,863,338	34,233,097

負債の部					
科目	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
固定負債	2,161,391	3,222,963	3,247,315	3,273,417	3,299,862
流動負債	2,486,965	2,003,406	1,558,207	1,956,484	1,726,164
負債の部合計	4,648,356	5,226,369	4,805,522	5,229,901	5,026,026

純資産の部					
科目	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
基本金	40,910,139	41,237,939	41,270,315	41,634,986	44,106,647
第1号基本金	40,098,451	40,424,990	40,455,913	40,819,653	43,290,034
第3号基本金	246,688	247,949	249,402	250,333	251,613
第4号基本金	565,000	565,000	565,000	565,000	565,000
繰越収支差額	△11,638,566	△12,398,443	△12,921,671	△14,001,549	△14,899,576
純資産の部合計	29,271,573	28,839,496	28,348,644	27,633,437	29,207,071
負債及び純資産の部合計	33,919,929	34,065,865	33,154,166	32,863,338	34,233,097

4. 主な財務比率の推移

主な事業活動収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。なお、財務比率の算式は日本私立学校振興・共済事業団が提示したものを使用しています。

(単位：%)

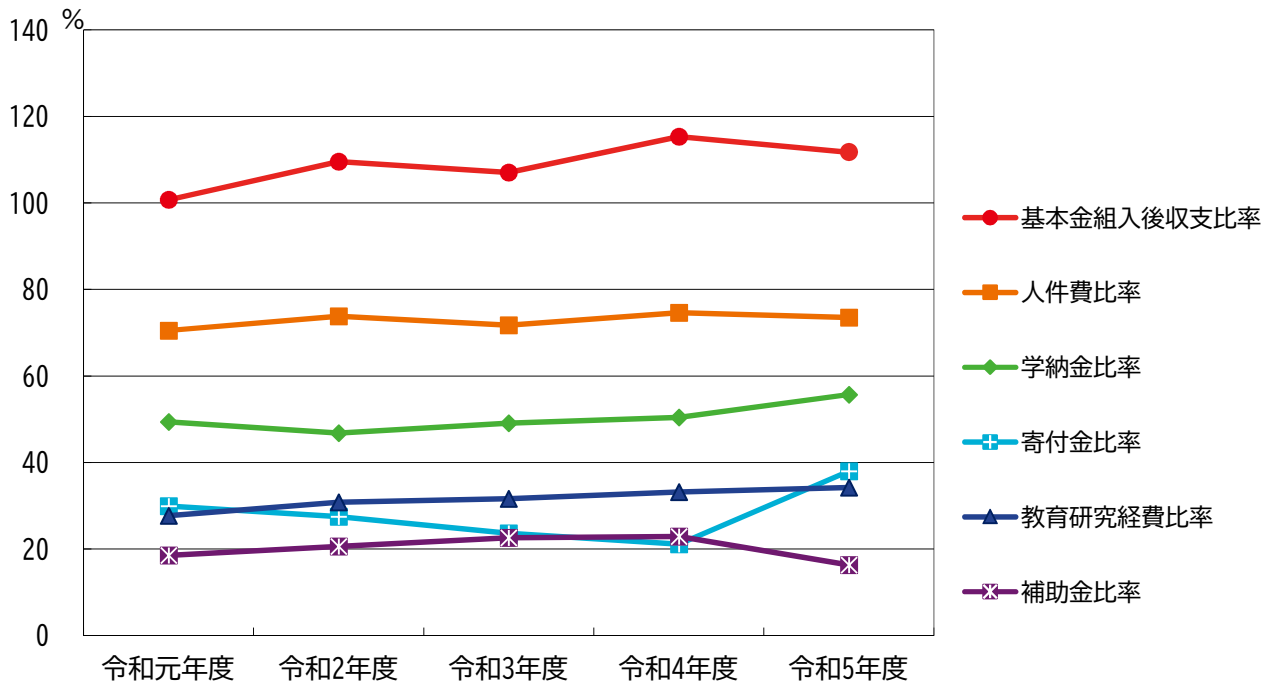
事業活動収支計算書関係比率	算式 (×100)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	70.5	73.8	71.7	74.6	73.5
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	142.8	157.9	146.0	148.1	132.1
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	27.7	30.8	31.6	33.2	34.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.5	4.0	4.2	4.3	4.0
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0	0	0	0	0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	1.2	△5.2	△6.5	△9.6	△15.5
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	100.7	109.5	107.0	115.3	111.7
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	49.4	46.8	49.1	50.4	55.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	29.9	27.5	23.6	21.1	38.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	18.5	20.6	22.6	22.9	16.3
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	1.9	3.9	0.4	4.9	24.4
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△2.7	△8.7	△7.6	△12.2	△11.7
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△3.1	△9.0	△7.9	△12.5	△12.1

「経常収入」 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

「経常支出」 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計

貸借対照表関係比率	算式 (×100)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	78.8	80.9	82.7	80.9	82.4
純資産構成比率	$\frac{\text{純資金}}{\text{総負債 + 純資産}}$	86.3	84.7	85.5	84.1	85.3
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	91.3	95.5	96.7	96.2	96.6
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産 + 固定負債}}$	85.0	85.9	86.8	86.0	86.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	289.2	325.1	367.9	320.4	348.9
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	13.7	15.3	14.5	15.9	14.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.5	96.7	96.8	96.9	97.0

事業活動収支計算の財務比率の推移



基本金組入後収支比率は100%を上回り、令和5年度では111.7%となりました。人件費比率は退職金が減額したため、前年度から1.1ポイント下がりました。学生生徒等納付金比率(学納金比率)は5.3ポイント上がり、寄付金比率は、天理よろづ相談所学園、天理教校学園からの現物寄付があったため16.9ポイント上がりました。教育研究経費比率は1.0ポイント上がりました。事業活動収入の増額により、補助金比率は6.6ポイント下がりました。